

平成 1 2 年度

まちづくり懇談会

記録誌



平成 13 年 2 月

入 善 町

目 次

1、 実施要領	1
2、 開催一覧表	2
3、 まちづくり懇談会記録	
(1) 入善地区	3
(2) 上原地区	10
(3) 青木地区	18
(4) 飯野地区	27
(5) 小摺戸地区	34
(6) 新屋地区	41
(7) 櫛山地区	47
(8) 横山地区	53
(9) 舟見地区	61
(10) 野中地区	69
4、 ご意見カード集約	74

平成１２年度「まちづくり懇談会」実施要領

１、趣旨

住民からの意見聴取や広報・広聴活動を拡充し、住民の意見を把握・反映するためまちづくり懇談会を開催する。

２、開催内容

(１)構成

２部構成とし、事前に地域からまちづくりのテーマを出してもらい、町政全般にわたるもの「まちづくり」、地域にとって課題となっているもの「地域課題」などについて、当局と住民が各テーマについて話し合う。

(２)進行

地元主導で１名、町１名の２名で進行する。

(３)要望

道路、用排水路改修などの要望事項は後日文書で回答する。

(４)出席者

町長、助役、収入役、教育長その他、課題別に応じて担当課長が出席する。

(５)ご意見カード

出席者に当日の課題について、意見要望、提言を書いてもらい、終了後に提出してもらう。

○ まちづくり懇談会の式次第（２時間めど）

１、開会あいさつ（区長会）

２、町政についての現況説明（町長）

３、総合計画策定について概要説明

４、座談会 第１部「まちづくり」 第２部「地域課題」 進行は地元主導

５、地元議員・助役あいさつ

６、閉会（区長会）

入善地区まちづくり懇談会

平成１２年１１月１８日（土）

１９：３０～武村福社会館

出席者 地区住民８６名、 町当局１９名

- １．あいさつ（澤田俊彦区長会長）
- ２．町政について現況説明（米澤町長）
- ３．総合計画について現況説明（大木企画広報課長）
- ４．座談会（座長・岩場勝郎氏）

第１部 まちづくり

（１）町の幹線道路網について

沢田区長会長

入善駅から国道８号までの中央通り線が途中で中断している。早く進めて欲しい。

また、朝夕の８号の混雑に対する拡幅等について、どのようになっているのか。聞かせていただきたい。

松島建設課長

中央通り線は県が事業主体となっている。第１期区間は平成９年までに整備した。景観と歩行者の安全等を考慮に入れて行われた。第２期区間が残っている。第２期区間については平成９年度に計画が認められ、現在物件移転などを行っているが、用地がまとまらないため工事が始まらない。また、法務局の公図等に混乱がみられ、時間がかかっているのは事実である。町としても協力をしていきたい。事業は、平成１５年度の完成を目標にしている。

国道８号の拡幅についてであるが、バイパスは平曽川国道線までの区間について、平成１４年度の供用開始を目指して進めている。飯野地区については地元説明が終わっており、上原・青木地区についても行っているところで、建設省は言動の尾上原交差点に接続させる考えを持っている。問題は、警察署前から上原住宅までの現道拡幅で、８号バイパスの進捗後に予定に変更された。建設省は出来るだけ早く行いたいという意向をもっており、また、西高東低の格差を埋めるために、予算を東に配分したいということも言っている。現在、警察署前では、地下歩道などの工事を行っている。

第 2 部 地域課題

(1) 入善地区公民館の建設について

沢田区長会長

10校下中、9校下に地区公民館があるが入善地区にはない。入善地区公民館があれば他地区の地区公民館を借りなくともよいのではないか。武村福祉会館やコスモホールなどの町の公共施設は、一か月前の申し込みですでに満員になっている。武村福祉会館全体で空いている部屋を使ってもよいという許可は得ているが、使用料がかかる。

大木企画広報課長

現状は、まさしくそのとおりであるが、入善地区公民館の整備については中心市街地の再開発計画でのにらみが必要ではないかと考えている。中心市街地周辺の一体的な整備ということが問題となる。中心市街地の活性化のための具体的な施策は、TMO（まちづくり会社）によってプランニングをすることになっている。TMO構想の中の事業には、行政が担う部分と民間が担う部分とがあり、行政としては公衆道路、地区公民館的な公共施設などについて行うことになると考えられる。したがって、TMO構想の中で、公共施設的な機能を併せた開発をしていくという方針が位置づけられれば、行政として責任を持って整備していくことになる。

座長

計画で位置付けられなければ終わりということか。

大木企画課長

中心市街地の活性化と全く関連なく公民館だけを単独で考えて建設する、というわけにはいかないということである。TMO構想の中での位置付けが行われる必要があるということをご理解いただきたい。

屋木さん

50年ほど前の話であるが、入善公民館が県で第2号の公民館であった。町も公民館の設置条例を作った。昭和26年には各地区への半額補助が行われて神林、上田などあわせて6つの公民館ができた。その後、昭和28年には町が合併し、中央公民館が必要となったため、入善公民館が中央公民館となり、入善地区公民館は中央公民館に併設されることになった。そして昭和29年の4月には町の図書館もできた。昭和32年には健康センターの前に新しい中央公民館が建設され、その横に入善地区公民館の看板もあがってい

たと記憶している。昭和４７年には、この武村福祉会館ができ、２階に図書館も移動してきた。その後、昭和６１に中央公民館・図書館・コスモホールと３つの機能を持つ複合施設として町民会館ができ、入善地区では福祉会館の図書館が移転したあとを地区公民館として利用してきた。そしてさらに、サンウェルが建設され社会福祉協議会などが福祉会館から移転し、少し広くなったかなと思ったところで、教育センターなどが移転してきた。このようにいろいろ変動がおこり、だんだん会議室等が狭くなり、かつてよりも公民館として使用できる部屋が少なくなっていった。ぜひ、新しいものを建設してほしい。昨年の使用状況は公民館室は３４２回、使用者は５千人、武村福祉会館内の他の場所も使用した事例も含めると、全部で６１９回、８千３００人が利用している。

先ほど、地区公民館を一部含む複合施設的なものを考えているというお言葉をいただいたが、利用状況に見合ったものになるのか不安を感じる。

上原生涯学習・スポーツ課長

入善地区の公民館活動が非常に活発であることは十分理解している。サンウェルができ、社会福祉協議会などが移転したが、代わりに教育センターなどが入ってきて結果は同じ、あるいは、さらに狭くなっているということも認識している。従来、入善地区は中心にあるため他施設を相互に利用していたいただいた経緯もある。

現実には公共施設の利活用をお願いしたい。現状では入善地区だけのコミュニティ活動時に自由に使えず、独立館としての必要性も理解できる。しかし独立館として新しく建設するとなると財源的に非常に難しく、総合計画では新しい施設の要望はしていない。武村福祉会館自体の利用率は、３階の披露宴室が特に低いため、こちらをなんとか改装などして社会教育の場として利活用できるようにならないかと考えている。地区の皆さん方は中央公民館や上原・櫛山公民館にて活動されている。利用率については建物の利用の度合いが地区公民館の部分としては多いが、全体の利用率は、新屋や飯野など他の独立館よりは数字的に半分ほどの低い利用率となっている。いずれにしても生涯学習の展開については、建物も大事ではあるがソフト事業として、使われ方をどのようにするか模索していく次第である。

入善地区体育協会の高森さん

我々も日ごろの打ち合わせは町民会館や勤労者福祉センターを使用している。閉館時間を忘れて話し合うことも多い。カップ等の記念品を展示、保管する場所がない。その点からも一日も早く地区公民館の建設をお願いしたい。

須沢さん

建設はすぐにできるわけではないので、その間の問題もある。先ほどの話では利用者が多いが、一方では空いているという。その運用について、町が行えることはないのか。この日はどこそこが開いているとか、そういったことを聞かせてもらえたりできるような行政の努力が足りないのではないのか。

座長

施設の予約システムが上手くできていないため問題が起こっているということではないか。情報を集約するシステムができないのか。

林財政課長

武村福祉会館は健康センター部分などサンウェルに移動した部分は空けておくのも手ではあったが、公共施設の市街地への集中を考えて教育センターを移動した。水笑楽ホールは今後、物品販売には使用せず、公共的なことに使用することに決定したところである。今回の物品販売については3か月前から受けていたため、本日と重なってしまった。12月になればこのようなことはないと思う。区長会、公民館活動など公共の際には、利用料は当然取らない。また、先にあったように3階部分の空いている部屋を流用していただければと考えている。福祉会館は、ご存じのように昭和47年に篤志により建てられたわけであるが、当初の目的と現在の利用と違うので大変使いにくい部分がある。

地区公民館の問題については、新たに建設となるとお金がかかる。また、TMOについても運営等なかなか難しい問題を抱えている。経営や採算性などの問題がある。TMOとして複合的に行っていけないようであれば、町として手掛けることも視野に入れ、検討しなければならないと考えている。

座長

建設するのかもしれないのか、全体のまとめはどうなってるのか。

上原生涯学習・スポーツ課長

他の地区では賞状などは地区公民館に飾っている。生涯学習へ所管が移り、お話があれば入善地区の賞状などを武村福祉会館のロビー等に設置できるようにしたい。入善地区は各区が多いので会合にも大きな部屋が必要ではないか。須沢さんの質問については、使っていただいてよいのだが、空いていても使用しづらい部屋もある。結婚式用の神主さんが祝詞をあげる部屋など、目的ある内装の部屋などは、結婚式が全くないのであればこれらの内装をリニューアルする事も考えていきたい。

座長

予約について、勤労者福祉センターなど他の施設があるので、利用したい日時に利用できる施設を紹介するシステムを作れないのか。

鍋谷保健情報室長

サンウェルについていえば予約状況確認をインターネットでできるようにしているが、他の施設についてはそこまでの設備とネットワークができていない。しかし、将来的には、インフラ整備を行い情報化に取り組んでいく中で、システム化を図りたいと考えている。

木本助役

それぞれの公民館ができていなか、必要性や皆さんの気持ちも分かる。他の地区は農村地区であるのでレイアウトが分かりやすいが、入善地区は人口も多くいろんな職種の方がいらっしゃるので、ニーズの把握など簡単にはいかない。使いやすい公民館にするため、TMOの中心市街地活性化策としての複合構想として行う必要もあるということを理解していただきたい。また、別途建設地を求めるなどすると用地取得費なども立地条件的に市街地は高い傾向にあるので財政的にも難しい。コミュニティ活動が増えている現状からの裏返しの問題と思っており、既存の施設などを活用して活発な活動をお願いしたい。

米澤町長

空いているフロアは是非使ってもらいたい。皆さんにその思いが伝わっていなかった。水笑楽ホールは、物品販売などに使用せず、地区公民館として使っていただくようにした。建設となるとどのくらいの規模が必要なのか、入善町全体としてのことを考えたときにどのような形態がふさわしいのか。入善地区だけの公民館と、全体の公民館の2つの公民館が考えられる。皆さんの要望では、地区の公民館として作りたいということであるが、入善地区は町の中心地であり人口規模も大きい。そのため町全体のことを考え、町の活性化あるいは中心市街地の活性化を図るため、総合的な計画をたてながら検討する必要がある。そのため複合的な施設整備を考える必要があると思っている。計画がまとまれば、町として取り組んでいきたい。

座長

建物そのものは第3セクターで建設するということはないですね。

木本助役

そういうことではない。

野坂さん

懇談会ではない、陳情会ではないか。少しもまちづくりの話しになっていない。いいものを町民は望んでいるので、専門家に頼むなどし、お金をかけてやればいいことである。人口の集約のためには市街地の活性化、そのための施設整備など、それなりの展望が必要である。地区公民館建設だけにこだわる必要はない。公民館的な活動を行うことができる施設は、福祉会館以外にもたくさんあるので、それら施設を有効活用していけばよいと思う。

(2) 入善地区における土地対策について

区長会長

入善地区の土地対策についてであるが、少子・高齢化の影響で元町が空洞化している状況にある。若者が町外で働くため、勤め先で土地を求め家を建てるということが大きい。小学校の児童数も減少している。そこで入善地区内で公営の宅地分譲を行っていただけないか。

松島建設課長

町では、いままでにいくつか直営の分譲宅地の造成を行ってきた。近年は民間活力の利用が重視されてきており、町は他にやるべきことがあるということになってきている。宅地の開発には民間宅地開発補助金制度を設けている。業者だけでなく入居者も対象にしている。このことから民間の宅地であっても割安になっているはずである。このように一定規模以上の分譲宅地については、補助金制度を通して町が間接的に行っているというように考えていただければよいかと思う。また、町営でやれば単価が安く簡単に用地を取得できるかといえ、必ずしもそうではなく、町が直接用地交渉を行っても簡単に進むことはない。特に市街地の中に用地を求めることができるかという点に関しては、値段・代替地の問題などでなかなか難しく、町に用地を買ってほしいという申し出も今のところない。郊外の方には土地を売りたいという人が多く、梶山地区は民間による土地開発が進んでいる。単価的には町が行っても民間が行っても違いはそんなに無いのでは。むしろ民間のほうが条件がよいこともある。もし、今後、町のほうへ土地を提供したいという申し出があれば、検討していきたい。

区長会長

町から黒部などの町外へ出ていく人についての対策としてお聞きした。元町には用地を取得しにくい、元町から梶山などの郊外にでていく人については民間の宅地があるというように聞こえる。入善町から町外へ出ていく人への対策として町営の宅地分譲は考えていないのかということを引きたい。

松島建設課長

場所的に市街地か市街地の周辺かで事情が違うということを聞いたかった。もうすぐ東町住宅の建て替えにかかるが、従来の入居制度を見直ししていく考えがある。所得がある程度あっても入れるようにしていく方針で、入居しやすい町営住宅にし、定住化を図っていきたい。

座長

歴史的にみて、東洋紡の誘致にはまちが絡んでいたこともあるので、東洋紡績の土地が民間によって突然分譲されたので、危惧されたのではないかと。総合計画上、元町で町営の宅地分譲を造成するという考えはあるのか。

林財政課長

人口減少問題への対応策として、他の地区の懇談会でも分譲宅地を行ってほしいという要望がある。入善地区は土地の単価が高い場所のため、他に流れていくということも考えられる。ご指摘の東洋紡の土地については、手放してもよいというものがあり、相互に話しあって町が直接取得または間接取得という方向で住宅や分譲宅地ということに限らず、前向きに町の発展のために利用させていただくという方向で話をしているところである。総合計画については煮詰めている段階であるので発表は後日とさせていただきたい。

5．地元議員・町あいさつ

6．閉会 21：30

上原地区まちづくり懇談会

平成12年11月13日(月)

19:30～産業展示会館

出席者 地区住民105名 町当局16名

1. 開会の挨拶(寶田和男区長会長)
2. 町政についての現況説明(米澤町長)
3. 新総合計画についての現況説明(大木企画広報課長)
4. 座談会(座長・泉 幸子氏)

第1部 まちづくり

(1) 道路の問題について

都市計画道路「上野吉原線」について

寶田区長会長

今年は新たに8号線バイパスの問題が生じてきた。道路を改良したり出来ることによって周りの地区がよい環境になり、発展しなければならない。ところが、上原は都市計画道路の一部着工が始まってから、いつできるのか全く分からない。また、上原には8号線から吉原に抜ける幹線道路が1本も無い。併せて8号線バイパスが7年もかかっているうえに斜めに横断しているため、村が分断される。

柳田さん(柳原)

柳原地区から踏切を突破して8号線へ抜ける道をつくってほしい。

西村三夫さん(下上野)

8号線から愛場様の家の前で道路が停滞している。これはいつ頃までをめぐにしているのか。また、上野吉原線で、JRを地下道にするのか、高架橋になるのか。

松島建設課長

道市踏切の問題ではないか。現在の踏切は道路が曲がっており危険な状態のため、JRと協議してあと一步の状態だが、地権者の方のご協力をお願いしたい。平面交差にしたいが、上り線と下り線の高さが違うため嵩上げが必要で町の負担も大きい。町としては是非やりたい。上原にはアンダーが多く、県道も立体交差で、まともな交差点がない。県道にしても自転車、歩行者道をつけたいと思っている。その分用地も必要になるので地元の協力をいただきたい。

上野吉原線については都市計画道路として昭和３７年に開始。その後土地改良事業があったために斜めに田んぼを分断してしまったので、平成４年に計画変更し、水路線形に沿って北側に向かうようになった。延長は吉原から田中踏切まで１９８０ｍ、幅員１６ｍをうたっている。上原地区の南北の一体化を図る、大型企業の輸送路、通勤路等の生活活動の向上目的のため計画された。第１期の計画として国道８号線から県道上飯野入善停車場線までの延長６００ｍ。地権者の協力を得たいが、田んぼがななめに切れるなどの問題がある。用地交渉を早くしたいと思っているが、何年という見通しについてはまだ分からない。ＪＲを越える地点は当初はオーバーの予定だったが、その後はアンダーで行く計画になり、できるだけ早くやりたい。上原の上、下を結ぶ貴重な道路である。物件移転も多いが承諾いただければ話が早く進むと思うので地元のご協力をお願いしたい。

８号バイパスと交通安全対策

目沢昭男さん（上野４区）

８号バイパスは上原地区はすべて斜め横断になる。地権者約２０戸、宅地住宅にかかる人も約８戸ある。いつごろまで、どういう形ですすむのか、ある程度教えてほしい。また、建設にあたって区長、地権者や各団体長などで協議会をつくった。このメンバーを含めて悔いを残さないバイパスを至急造ってほしい。

松島建設課長

国道の中で一桁の道路として、国会議員等を通じ国へ強く要望してきた。交通の関係は県は西高東低であると言われている。西の方は整備が終わったので、今後は国も県は東に重きをおいて予算付けしていただけるのでは。入善側の方は早いですが、黒部側は遅くれている。平成１４年の一部供用開始を目指している。第１次は生地から黒部インターに向かう道路から、町道平曾川国道線まで片側２車線の供用開始を目指している。第２次は平曾川国道線から北星ゴムの横の布合川までの間を工事をしたいということで説明会を開いているところである。青木上原地区は、田んぼに斜めに入るため、農家の問題があるが、ご協力をいただきたい。国道と交わる交差点は原則、県道が平面交差、町道が立体交差（アンダー）となるが、地元の要望を検討していきたい。特に通学路などは危険と思うが地区では平面交差を要望しておられる。しかし、県道は２ｍ高くなり平面交差となり現況より嵩上げとなる。従って町道はその下をくぐることになるので、地元と充分協議していきたい。大変危険な交差点となるが、交通安全について地区の対策協議会とも話しながら建設省と協議していきたい。

杉本さん（邑町区長）

長期計画の場合、上からできなければ下からするとか、状況の変化に応じて8号バイパスの計画の見直し等も念頭に入れておいてほしい。通学の時間と、通勤車との時間がかみ合っている。歩道の設置等も計画に入れていただきたい。防火用貯水槽も検討していただけないか。子供、老人が住みやすいまちづくりを検討してほしい。

松島建設課長

町で計画している幹線道路には、特に通学路は歩道を付けて完備したい。その分用地がかかるので地権者には家の移転、切り取りが生じてくるが、ご協力を。国の考え方がかわり補助金の投資効果があがるかということで、若干計画が変わってきている。早く供用を開始できるようにしたい。

林財政課長

上原住宅には防火貯水槽を設置している。一基700万するものだが、今古黒部、春日地内で1基100万の井戸を掘っている。消防車で実験したところ、初期消火に充分耐えるものだという話なので、地元と同意が得られれば計画していきたい。

杉本さん（邑町区長）

きららの里の北側から保育所へ抜ける道路を、暗いところなのに猛スピードで飛ばす車がいる。あの道路を広くできないか。8号が渋滞すると狭い道路に車がなだれ込むため。

松島建設課長

車のすれ違いも容易ではない道路なので、陳情が出ており議会で採択されている。町はまず縦道を、その次にかかりたいと思っていたが、現状を見て見直しを考えている。横に長い田んぼであるため、地権者の方のご理解が得られれば、早く取りかかりたい。町としては実状をわかっているため、ご協力を。

住民

暗くて段差があるためにころんだという話も聞く。街灯をつけていただけないか。町全体が暗いので、もっと街灯を多くして明るくしてもらえないか。

鬼原総務課長

町の街灯は2300灯ほどあり、電気料だけでも年間600万円かかってい

る。毎年計画的に各地区に60～80灯を割り当てている。区長会の中で調整をはかってほしい。できるだけ要望をききたい。町全体を明るくするのは無理なのでできるだけ明るい所を通るようにしてほしい。

松島建設課長

街灯には防犯灯と交通安全灯の2種類があり、交通安全灯の方がとても明るいので交差点についている。田んぼ周辺では明るすぎると、「青立ち現象」が起きて補償をした。明るすぎて眠れないと言う人もいる。場所によって防犯灯と交通安全灯を使い分けてはいるが、地元の要望を聞いて設置したい。

第二部 地域課題

(1) 環境整備について

旧上原小学校跡地の整備と諸施設の建設

小路みつ子さん

上原小学校跡地全体にいろいろな問題がある。特に2点。

1つは北側の角にあるプール。現状は草が生えて太いツルが桜の木やフェンスにからみ付いている。年に2、3回は手入れされているが、全く追いつかない。建物はガラスが割れ、アベックが入っているようだ。しかも道路から死角になるので、治安あるいは健全育成の立場からも、上手い方法がないか。

もう1つは、校舎跡の撤去の問題。連青が使わなくなってから中学生や高校中退者などの未成年者がたむろしている。日中でも鍵を開けて入ろうとしている。ここも死角になるため盗難自転車も放置してある。深夜徘徊のたまり場になったり、ガラスを割って遊ぶなど、健全育成上、あるためにマイナスになっている。たばこの吸い殻も多い。防災上からも撤去される方が望ましいのではないか。

産業展示会館については、大変高齢者が増えたため、老人福祉センターが敬老会に狭く、展示館も狭い。小会議に多く活用されているが、トイレの数が少ない。調理台がなくそういう研修も自治体の公民館を利用しようとしても設備が整っていないものが多いため、不便を感じている。子供達の健全な遊び場、異世代交流等いろいろ使用できるよう、現状の展示会館をベースに改築を。ここには今はバラバラな建物があるが、全体の整備構想があれば聞きたい。

船平さん(吉原)

小学校跡地にお年寄りと子供たちが一緒になって楽しめる娯楽施設があればいいと思う。

西村三夫さん（下上野）

プールをいつまで放置しておくのか。また、校舎も同様。大変老朽化しているので壊すのか、活用するのか、はっきりしてもらいたい。アベックのことも聞いているので防火の観点からも大変危険。何年先にどうするという具体的な考えを聞きたい。

林財政課長

国営かんばいは、平成6年に事業が完了した。当初工事が終わり次第更地にして町に返すという話だったが、平成4年に改良区の合併の問題が出てきて、改良区の事務用地として買いおけばどうかということになり現在に至っている。平成14年に合併する改良区の事務所として機能を果たすことはできないが、合併の問題を踏まえて検討したい。

プールは国庫補助の財産処分の期間30年という縛りに苦労している。期限が切れた後対処したいが、あと2年半かかる。

雑草については予算を増やして、迷惑がかからないように対応していきたい。産業展示会館は会合に耐えうるスペースや、給湯室の狭さの問題は聞いている。それらを踏まえて建築すると南側だろうか。プールとあわせて、あと3年くらいで皆さんと話し合いながら計画していきたい。

上原生涯学習・スポーツ課長

この建物は地区の方だけではなく、町の中心部にあることから、大きなグループの活動が多いと聞いている。年間700回、14000人が利用されている。1回当たり20人ほど。特にホールの利用が多い。

改築等については、財政と相談しながら計画となるが、それまでは代替え施設については、老人福祉センターを逆に使用するなどしてはどうかと思うので、健康福祉課と協議していく。

子供と高齢者の方との交流の場としても大きな問題。8月から図書館から漫画本などを持ってきて移動文庫としている。学校週5日制も始まるので、展示館を子供達が楽しめる、遊べる施設として充実していきたい。外に出て遊ぶことも少なくなっているので、産業展示会館の工事とあわせて遊具の設置も考えていきたい。

寺西健康福祉課長

子供と老人の異世代間交流について、建物の建設は維持管理費がかかるため、現存の建物を利用した形でのご理解をお願いしたい。

ゴミ、雑草の問題

西村さん（道市）

道市は65世帯あるが、ゴミステーションは線路の北側に一ヶ所あるだけ。もっていくためにはJRを横断しなければならない。線路の上側にもステーションがあるといい。町が設置してくれるのか。また、上原地区内であればどこでもゴミが出せれば通勤時等に助かるのだが。

金田さん（新上野）

燃えないゴミが多く出るので週1回を2回に増やしてもらえないか。第2週の金属の日の週にもプラスチックの日を設けてもらえないか。

浦田さん（吉原）

ひとり暮らしや高齢者の方のゴミの出し方について、特に体の都合が悪い方は所定の場所や時間に出しに行くことができず、ヘルパーさんに頼んで前日出される。近所の人々の理解があるからだと思う。ペットボトルの処理が出来ないがために飲めなかった方もいる。掃除当番ができないからゴミが出せない人もいる。リサイクルカレンダー（ゴミの出し方）を理解できない方もいる。お年寄りに対して優しい考慮をお願いしたい。

また、ゴミを入れる容器のふたが上に上げる形のものであるため年寄りは上げられないし落ちてきて危険。横開きにできないか。収集回数を増やして。

山田さん（上野3区）

国体の時ゴミの収集が乱れていたが、地区の努力の結果、ようやく落ち着いた。

企業は分類が非常に細かいと聞くが、家庭ぐるみでもっと分かりやすい分類の仕方を例えばビデオテープなどで見られるようお願いしたい。

村田さん（邑町）

旧国道沿いの老人福祉センター西のゴミ収集場所に地区以外の方が通勤時にいろんなものが混じったものを置いていく。区長会等を通じて周知してもらえないか。

小路さん

ビデオについては、住民課からエコぼ～とのビデオを借りており区長会と利用方法を相談しているところである。地区で利用したらどうか。

寶田区長会長

そのビデオの内容はエコぼ～との施設の宣伝が主だったので、もっと年寄りや子供にもわかるようなゴミ出しに関するビデオを新川広域圏などでつくっていただきたい。

大沼住民環境課長

ゴミステーションは町ではなく地区で設置してもらっているので、地区で話し合っていたきたい。今年4月から新しく設置されたところが3カ所あるが、連絡をいただいたので収集をしている。上原地区内でどこでも出せるように出来ないかという質問は、老人福祉センターの西側での地区外の方が置いていく問題にあるように自分の地区で出さないとだんだんルーズになってマナーの低下が心配されるので、ご遠慮願いたい。

燃えないゴミの週1回を2回に増やすことについては難しい。ステーション400カ所の調整や経費の問題をクリアしても、黒部の宮沢清掃センターでは全部溶かして固めて埋めて処理している。収集車が順番待ちしている現状で限界に近い。週2回は無理では。2市3町ではすべて週1回となっている。金属の日、粗大ゴミの日に種類の違う物をいっしょに収集するのは困難である。事情は分かるが1回でお願いしたい。

1人ぐらし老人の方のゴミ出しの問題については、町は収集車の収集時間にあわせるためであり、前日に出すことについてはどちらかと言えば地区の問題ではないか。ペットボトルの処理が出来ない問題は、本当であれば上原の再生広場にもって行ってもらいたい。

清掃当番については地区の方で話し合ってほしい。

カレンダーについては、来年度、分かりやすくなるよう工夫したい。ステーションの容器のふたの問題も地区で修繕等していただければ、若干町で補助をする。

ビデオについてはたしかに分別の仕方まではいっていない。老人から子供まで理解できるようなビデオの作成をというご意見は、今後広域圏に話をし、町独自で作成することも考えていきたい。

邑町区長

再生広場の川の縁に乱雑に置いてあるコンクリの固まりや赤白のパイプ等、見苦しい。

松島建設課長

除雪で痛んだ物をまとめて処分するために置いてある。早急に片づけるよう指示を出した。大変申し訳なく思っている

5 . 地元議員（元島議員）・助役あいさつ

6 . 閉会 21 : 40

青木地区まちづくり懇談会

平成12年11月7日(火)

19:30～働く婦人の家

出席者 地区住民63名 町当局17名

1. あいさつ(吉澤令元区長会長)
2. 町政についての現況説明(米澤町長)
3. 新総合計画策定について現況説明(大木企画広報課長)
4. 座談会(座長・西川久美子氏)

第1部(まちづくり)

(1) 公的研究機関の誘致について

大沼さん

このテーマについては、去年も同じものを出した。その結果、町にどのような意味があったのか、どんな意味合いをもったかを確かめたかったので、今回もまちづくりのテーマとして挙げた。

公的研究機関は、ただ手をこまねいているだけでは、来てくれるわけがない。入善町には日本海、沢スギ、海底林、深層水など素晴らしい素材がたくさんある。それをどのように生かすのか。現在、黒部川扇状地研究所に助成を行っているということである。そのほかにも研究機関には大学や企業などいろいろな種類があると思う。そういった研究機関を誘致するためには何か核になるものが必要かと思う。素材を研究機関へ提示し助成を行う、あるいは短期研究者の招へい、ゲストハウスを用意するなど何かしなければならないのではないかと思う。積極的に、科学技術庁や民間研究所などに働きかける必要がある。土地、家などの手配をすれば、誘致できるのではないかということを聞いたこともある。当局としては、どのように考えているのか。

吉原の海底林は、学術的価値が高く、全国ニュースにもなったことがある。しかし、海底林は福祉会館などに一部展示してあるが、倉庫に眠っているものがあるということである。また、深層水事業を進めているということであるが、どこで何をやっているのかわからない。漁港に行くと小さな看板があるだけである。地域資源の活用とともに、もっと宣伝が必要だと思う。ご意見を聴かせてほしい。

大木企画広報課長

公的研究機関の誘致について、手をこまねいてはだめではないか、地域

資源を生かした研究機関、大学の研究機関を誘致できないか、というご指摘であった。総合計画上、研究機関の誘致と企業誘致は密接に関連するものとして位置づけている。入善町は東洋紡績、アイシン新和など外部からの大企業の進出、あるいはシロウマサイエンスなどの地元企業の努力によって、産業経済的に発展してきた。しかし、バブルの崩壊以後、企業の地方への進出はむしろ厳しい状況にある。新産業の育成、企業誘致については雇用の拡大を促進し町の活力源となるため、町の魅力を生かした積極的な企業誘致活動の展開を総合計画上うたっている。特に、海洋深層水などの地域資源を活用し研究開発型の先端産業の誘致、オープンラボという開放型の建設を検討しているところである。また、地域資源として風力発電なども調査しており、これらと呼ばび水にしていけないかと考えている。さらに、新産業進出の環境整備として、光ファイバー網の整備を行い、インターネット、ＳＯＨＯといった新しいビジネスチャンスに取り組むベンチャー企業を育成したいと考えている。

そのために研究機関は必要であり、また誘致への努力が必要であるが、公的研究機関というのは雇用の拡大や経済発展には直結しないものであり、人口の定住問題にシフトした取り組みが必要であると考えている。研究施設を誘致し公的なものとして研究員を雇用するなどすると、施設提供、給料などで概算で年間１億円ほどかかる。そのため町独自の公的研究機関の設置は慎重に考える必要がある。研究の成果を町に還元するため何を研究するか、そして研究の成果をどのように活用するかといった目的のしっかりとした民間の研究開発機関を誘致する必要がある。町としてはそのための体制づくりを進めていきたい。

大沼さん

今、言われたのは一般的な話。雇用が拡大するような産業に結びつく研究機関の誘致を積極的に進めるべき。研究に助成をする、研究者を雇うと費用がかかるというなら短期研究者を雇うなど工夫して一歩でも前進する必要がある。また、深層水の看板くらいはつけられないのか。

大角農業水産課長

深層水事業については、取水の方法など安全で安くより高度な技術をもったところがないか検討中である。今後は、国道、庁舎周辺、地元などでＰＲにも力を入れていきたい。

杉沢さん

町所有の水田利用方法について、以前、国道８号バイパスができると「道の駅」を作ると聞いたことがある。総合計画立案中であるということであるが、

青木地区に「道の駅」を作るという計画が盛り込まれているのか。

また、農業祭の時に駐車違反の取締りがあった。農協の事業ではあるが、町のイベントでもあると思う。せめて片側駐車ができるよう警察に働きかけるべき。こういったことが、フラワーロードなど各種イベントの活性化を妨げるのではないか。行政が、警察・県・町一体となって協力すべきであり、町で積極的に警察などへ協力を求めるべきではないか。

大木企画広報課長

青木地区の町有田の活用という件について、今ここで「道の駅」などというような明言はできないが、地場産品の振興を図ることができる地場産品館などの想定はできる。町有田などを有効利用して地域の活性化を図れないか検討する。

大角農業水産課長

道路の占有については警察に働きかけているが、交通の安全上、なかなか希望どおりにはできない。フラワーロード、農業祭、港まつりなど様々なイベントがあるが、交通の妨げになることはできないため学校などの公的機関の周辺で駐車場のある場所でのイベントの開催に努めている。

杉沢さん

行政のトップが積極的に働きかけるべき。東京でのイベントでは、警察が協力してくれる。町はだめなのか。警察とじっくり話し合う必要がある。入善町の発展のために必要である。

米澤町長

商工会主催の七夕まつりでもこのようなことがある。警察へ協力をお願いしているが、周辺の住民の皆さんも協力をお願いしたい。イベントによる通行規制に苦情を言う人もいて、警察も取り締まり依頼があれば動かざるを得ない。また、何かあったら誰が責任をとるのかという問題がある。住民の協力がないとイベントは成り立たない。警察と町、そして周辺住民がお互いに協力しながら安全を確保するようにやっていきたい。来年も警察とよく話をしていきたい。

第2部 地域課題

(1) 青木地区の下水道事業について

松田さん

8号バイパスの問題で、交差点ができると盛土2mが必要とのことである。道路ができてからの下水道整備についてどのように考えているか。

本多下水道課長

現場を確認した上で、計画的な整備方法を考えていきたい。

広田さん

生活雑排水による農業用排水路の水質汚濁は農業生産に影響すると考えられ、環境や水質の改善・保全のため下水道事業に取り組まれていることを高く評価している。青木地区でも一部工事が終了しており、目川地区では施工の説明がなされた。青木地区の工事開始時期、供用開始時期はいつか。特に新築、増改築を予定している人はどのようなすればよいのか。既存の水廻りとの接続の方法など、個人負担が少なくなる方法があるのではないかと思う。増改築などの参考にしたいので教えていただきたい。

また、個人の加入は義務付けか。入ったほうがよいというのは理解できるが説明していただきたい。青木地区内には10か所の公民館があるが、公民館との接続はどのようになるのか。強制加入となると各家庭の経済負担が大きい。加入の際の資金の調達方法や個人負担の平均的な金額を教えて欲しい。また、設備の維持管理などの経費はどのようになるか。町民はどのような協力をすればよいのか。

本多下水道課長

下水道事業は、平成9年度から取り組んでおりまして、東五十里に建設している浄化センターは13年度の供用開始を目指している。管は70キロあまり整備済み。全体として300キロほど延長があり、16～17年かかるものと予想している。当初20年間の予定であったが、期間的には短くなっている。

青木地区については、まず国道8号から北側の国の認可を受け、浄化センターを中心に整備を進める。浄化センターから目川は3～4キロあり、青木地区は南北に長いため、完全整備には年月を要する。国道8号の北側は7年ほどかかるのではと考えている。平成14年度末には目川に着工、国道8号に到達するのに7年かかり、さらに上部に2キロ近くあり、まだまだ時間がかかると思われる。

使用料については、現在の条例の使用料体系から説明すると、一般家庭では

1,900円の世帯割に、人数割として500円×人員（例えば3人家族なら1,500円）それに消費税をプラスした額を浄化センターなどの維持管理費として徴収する。それ以外の維持管理費、個人で浄化槽を設置している場合にかかる定期検査代などは、個人にはかからない。個人ですでに浄化槽をもっている人は撤去する必要があるが、中を掃除して埋めるのがずっと早くて負担が軽い。公共マス設置に対する個人負担の額として、一戸当たり25万かかる。それにプラスして公共マスから先は個人負担になり、約1メートル当たり1万～1万5千円かかる。水洗化が必要なため便器などは個人負担で、維持管理は使用料でまかなうといったことになる。

国道8号から下の区域は、認可済みのため合併浄化槽の設置補助を受けることはできない。上部はできるが、合併浄化槽のみで単独での浄化槽は製造中止になっており、建築基準法でも単独の浄化槽での許可がおりないことになっている。今まで以上に環境問題を重視するようになってきている。新築はある程度のリスクが必要で下水道のくる時期をしっかりと見定め、公共マスにつなぐことを前提に配管工事することをお勧めする。下水道の管は公道に設置するので、公共マスにつなぎやすいように配管業者などと相談しながら新築などをしたほうが負担軽減になると思われる。

また、下水道加入は決して強制ではない。ただ、みんなで環境を守るという意識をもっていただきたい。説明会は工事に入る2年前に行い、計3回の説明会を開くことになる。分からないことがあればいつでも質問していただきたい。

公民館については、75%の軽減措置がとられ、残りの25%を地区が負担することになる。自治公民館は基本料金が毎月2,400円をお願いしたいが、使用頻度に応じて軽減することも考えられる。

資金調達の関係であるが、限度額150万円で銀行の融資制度を受けることができ、2%まで町が利子補助を行う。目川地区、木根地区などで工事が終了しているところは13年度9月1日以降から浄化センターが稼働するので、随時加入していただきたい。

林財政課長

公民館の関係で補足するが、公民館において下水道工事に伴い排水設備を改修する場合は工事費の30%を補助する制度を新設し、下水道の普及の促進を図る予定である。

住民

国道8号の北側から下水道整備が始まるということであるが8号バイパスの

工事に関連して行われるのか。8号バイパスについても聞かせて欲しい。

本多下水道課長

8号バイパスについては平面交差が考えられる。東西に走る道路に対して、下水道は南北ということで平面交差する。バイパスに対して下水道は、南北に下水管の工事を先行して行っている。そのほうが効率がよい。バイパスの横断については現場の状況を確認し、建設課など関係各部と協力しながら進めていきたい。

松島建設課長

バイパスの進捗状況についてであるが、平曽川国道線まで1期、14年度一部供用開始、2期の工事ということで、平曽川国道線から北星ゴム横の布合川までをできるだけ早くやりたいということである。それから上原地区で現道に接続する。地権者の協力を願いたい。三角田が生じたり、場所によって1～2mほど道路が高くなるところがある。建設省では、県東部に重点的に予算を配分したいと考えているようだ。用地の協力を願いたい。下水道工事との関係については、それだけ管が深く埋まると考えていただきたい。

木本さん

1年に1回の会合であるが、7時半から9時半という限られた時間で終了してしまうので、出前講座ではこみ入った話ができるかと期待している。役場の評判がよくないのは、相談、苦情を個人的に受ける体制が整っていないためかと思う。下水道、バイパスなどこみ入った話は当事者がよく認識している必要があるため、3回と言わず10回でも関係者が納得するまで説明すべき。広報活動が不足しているように思う。

総合計画についてであるが、10年という期間の中で5年後が一つの目安になると思う。人口構成、危機管理についてどう考えるか。これからは激動の時代であると認識している。少子・高齢化が極端に進み、若者の定住がない。産業構造、財政構造も大きな変化が予想される。企業誘致についても具体性はなく願望にすぎない中、はたして雇用が積極的に行われるのか。深層水も具体的にどうなるのか伝わってこない。危機管理についても、地震や黒部川の氾濫に対してどのような対策をしているのか。また、少子化の問題、少子化による変化をどのように捉えているのか。

大木企画広報課長

町の人口は、統計的に分析すると10年後には2万5千人に減少すると予測されている。人口構造的にも高齢化が進むため、たいへん大きな問題として危

機感を抱いている。人口の持続発展を基本に雇用拡大、そのための企業誘致などの取り組みを積極的に行いたい。少子化の問題は、生み育てるということが基本にあると思うが、なかなかそうした認識を持たない世代が増えているようだ。総合計画上は、保育サービスの充実を図るなど子育てをしやすい環境を整備し、子育て支援を行っていききたい。

財政規模が変化し、地方交付税、税収にも期待できないため、行財政改革についても積極的に取り組んでいきたい。

鬼原総務課長

危機管理についてであるが、ご存じのように日本各地で地震が多発している。そのため、町の防災計画にも地震対策を加えたところである。災害時は弱者対策が重要であるが、初期の段階で行政ができることには限界がある。災害初期の段階では、まずコミュニティ内部での助け合いに期待したい。そのため地域で自主防災組織を結成し、安否の確認や避難などの組織化を図って欲しい。また、情報伝達の問題として、衛星通信、無線などいろいろな手段が考えられるが、個人の側でキャッチする体制が大切と考えている。屋外拡声器は、町内に19か所設置されているが、風向きなどの条件から問題が生じる場所もあるかと思うので、町で助成を行っている防災無線の戸別受信機の設置をお願いしたい。11月11日には、飯野小学校周辺で防災訓練を実施する。地震を想定し、避難誘導などの訓練に取り組みたい。

木本さん

より具体的に災害発生シュミレーションを行い、扇状地という町の特徴に合わせた対策が必要ではないか。黒部ダムが決壊すればどうなるのかなど我々も学習したほうがよい。

また、入善駅無人化の阻止や櫛山小学校の保存問題などについて現実問題としてどうかと思う。足し算から引き算でいかざるを得ないような状況もある。10年前の総合計画の検証が欠けているのではないか。土地利用や水利用については個人の利権がからむため、うまく計画が成り立つのか危惧している。

泉さん

国、県など景気対策として国債などを発行しているが、町の借金はこのくらいあるのか。

林財政課長

町には現在、110億程度の起債残高がある。税収が落ちると減税補填債が発行されるが、景気浮揚策として3分の1ほどの補助がでる。少子化対策なら

100%補助になったりするので、なるべくよい制度にのって事業を進めるようにしている。基金として60億ほどの貯金もあり、大変厳しい財政状況ではあるが、現在のところ心配はいらない。総合計画の実施についても地方分権ということで、公設民営ということが増えるなど大変厳しい状況になることが予測されており、適切に対応していきたい。

木本さん

今後、まちはどのようになるのか。合併はどうなるのか。農協の合併、小学校・中学校・高校など2005年あたりをターニングポイントとして大きく変わらと思う。

鬼原総務課長

町村合併について、世の中の流れは大きく変わりつつあり、右肩上がりの社会も変化している。財源不足、価値観の変化、少子化などから行政需要を一つの自治体でまかないきれないおそれがある。さらに国の税収不足から地方交付税も見込めないため、合併は避けて通れない課題である。競争化社会では小さな組織ではついていけない。合併については皆さんが地域のありかたをどうかんがえるのか、地域の皆さんがまちづくりをどう考えるかが大切である。地域の皆さんが、それぞれ異なる生活圈と地域の文化・風土を考えあわせた上で合併が必要という判断になれば、話し合いの中で進められるであろうと考えられる。

泉さん

新川介護保険について文書ではなく直接話し合う機会があったのか。また、新川地域介護保険組合はいつ設立されたのか。

米澤町長

介護保険組合は4月にスタートしている。介護保険については説明会などがあった。

泉さん

事前説明はあったか。社会保険庁から年金から天引きするという通知を受けた。年金からの天引きについて個人の了解を受けたのか？

木本助役

介護保険料については、当初4月1日からの徴収予定であったが、65歳以上については国の方針で半年のび、10月から徴収が始まっている。2分の1

の徴収ということで本人にも社会保険庁等から通知が届いているはずである。年金からの天引きについては、法律上、個人の許可をとる必要はないことになっている。

泉さん

もっと、きめ細やかな説明がほしかった。

木本助役

説明をしてきたが不足していたかもしれない。今後も制度の周知に努めていきたい。

泉さん

介護サービスを利用しない場合はどうなるのか。額面に応じていくらか返還されないのか。例えば早くに亡くなった人に対して町で町民にいくらか返還するようなあり方があったらどうか。

木本助役

介護保険は、国民健康保険と同様に相互扶助という考えから成り立っている。従って、保険料を納入し介護サービスを受けなかった場合でも、保険料の返還ということはない。

5．地元議員（松沢議員）・助役あいさつ

6．閉会 21：40

飯野地区まちづくり懇談会

平成12年10月26日(木)

19:30～農村環境改善センター

出席者 地区住民98名 町当局21名

1. 開会の挨拶(井田榮一区長会長)
2. 町政についての現況説明(米澤町長)
3. 新総合計画についての現況説明(大木企画広報課長)
4. 座談会(座長・本多宗高氏)

第1部 まちづくり

- (1) 入善海洋深層水活用事業及び本事業推進のための諸整備事業について
～深層水活用による町の活性化を図るための目標をどのように考えているか～

深層水は町民上げての関心の的、全国的にも注目の的である。活用事業及び本事業推進のための諸整備事業について、次の3点にしばって伺いたい。

イ、水産業に対する目標と住民、特に漁業者の理解はどうか。

- ・養殖事業に対する方針と具体的な計画内容
- ・蓄養事業をどのような方法でどのような規模とするか。

ロ、非水産部門への利用とはどのような事業が考えられるか。その考えが具体的に企業化されるとしたらどのような段階をふむことになるか。企業としてどのような企業群があるか。

ハ、深層水による入浴について

世界的に注目されているこの利用効果とそれにも取り組む考えがあるか。

大角海洋深層水課長

深層水は日本の中で新しい資源として脚光を浴びている。本町では3つの柱を立てている。

1. 水産業の振興、新しい漁業の振興
 2. 新規産業の誘致、立地
 3. 水をイメージとしたまちづくりを総合計画の柱にしようということである。
- こまかく述べると

イ、漁業者の理解をどう得るか、まずは取水する、入善漁港の機能を高め、冷たい水(深層水)で鮮度の高い魚を供給してもらう。養殖に組合員の同意を得るため、事業の概要説明が予定されており、理解を得たい。

ロ、非水産部門をどう具体化するか。富山は高知からみると商品化が遅れてい

る。ミネラルウォーター、ドリンク剤などは多少荷崩れもあるらしい。他と比較してブランド化をPRしなければならない。発酵食品の酒、みそ、しょうゆなどもある。ミネラルという面からはとうふ、漬け物、塩物等の加工品もできる。赤穂化成は天然塩を作っている。化粧品では化粧水、入浴剤などにも利用できる。

また、農業部門にも利用できないかと考えている。富山大学でも研究中であり、既存企業を中心にさらには事業拡大していきたい。

八．海洋療法については、健康づくりや美容のための浴用、あるいは海水による入浴については全国で4カ所（内、深層水利用は1カ所）あり、アトピーや、リラックス効果があると言われている。

立塚さん

どの話を聞いても深層水の前途は良いように聞こえるが、まだまだ研究段階も多いから町の活性化につながるようにがんばってほしい。

町民

たとえばうまくいったら町はどのように潤うのか、どんなメリットがあるのかももっと具体的に聞きたい。

大角課長

具体的なことは今後総合計画の中で決めていきたい。町民がうるおうもの、新しい水産業、入善らしい鮮度の高い物を供給すれば魚の安全性が認められる。入浴施設については町民すべてが恩恵を受けることができる。未知のものについては研究し早く具体化するようにしたい。

木本助役

水産業の振興についてはアワビの養殖を考えている。養殖の場合は天候や場所に左右されず高級品であるアワビを計画生産すれば市場からも信頼され、量を増やせば増やすほど利益が上がることになる。計画では5万個を予定している。非水産部門では塩、化粧品などの工場を園家山に進出させれば雇用の場ができ、町には固定資産税も入ってくる。

（２）入善町における企業誘致について

～既存企業の事業拡大及び企業誘致による雇用拡大の可能性は～

町の既存企業の事業拡大はできるのか。新しい企業の誘致、雇用拡大予定があるのか。景気低迷が続く中、反対に縮小されたりリストラされたりというこ

とがないか。広域圏で入善だけ総合病院がない、総合計画の中に建設計画はないのか。

飛田商工観光課長

問題は人口対策、雇用対策ではないか。観光という面で今までPRがへただったが、今年に入って東京、大阪の企業を週1回程の割でまわって入善の地下水、土地利用、入善への進出をお願いしている。ビールについては需要と供給が問題である。県内でのビールの生産は需要が増えない限りないのでは。清涼飲料についてはドラム缶で1日1400本作っているが、静岡県で入善の6倍の工場を建設しているので入善で工場の進出もないだろう。今注目されているのは発泡酒ではないか。海洋深層水という未知の分野からこちらへ進出できないかとアサヒ飲料にアプローチしている。

大木企画広報課長

総合病院の経営はなかなかむずかしいということもあり総合計画の中には上げていない。これをカバーするためにコンピュータシステムによる福祉医療と保険の一元化を図り、健康データ・ファイルを活用してあさひ総合病院や黒部市民病院などとのネットワーク化をはかり、スムーズな対応ができるようなシステムを目指したい。

島瀬区長

梶山にはスーパーなど新産業が進出しているが飯野は過疎化している。深層水による新しい企業がくればいいが、まだ見えていない。

上島邦夫さん

8号線バイパスに対応して道路が整備されることにともなって新しい企業の誘致は全くないのか。

飛田課長

先般開催した散居村サミット参加市町の中で、砺波市には松下電器、島根県斐川町は富士通、村田製作所、島津製作所を呼んでいるため、人口が増えている。先週行った岩手県北上市や花巻市には松下電器、日立、東芝、NECなどがある。入善も豊富な水資源を利用してIT関連産業を誘致したい。

アサヒビールについては消費地の問題が有り、輸送にお金がかかるため富山でのビール製造はむずかしい。今注目されている発泡酒は酵母菌を使った天然バイオを計画し深層水を利用してもらえないか働きかけていく。

町民

用地買収に応じたのに「源水」はどうしてダメになったのか、町から何の説明もない。

木本助役

大変迷惑をかけた。工業団地の一部として町を通さずやったことなので、説明がなかった。８号線バイパスができれば飯野地区は今後水資源を中心とした工場誘致を期待しているが、今後はこのようなことのないように気を付けたい。

第２部 地域課題

（１）国道８号線バイパスの早期建設とその関連道路の整備について

８号バイパスは板屋、上飯野、東狐で建設中であるが、通勤時は渋滞が大変なので住民は早期完成を期待している。完成が当初の予定よりかなり遅れているようだがいつごろ開通するのか。８号とバイパスをつなぐ関連道路を延長して海岸まで行くのか。バイパスと同時に開通するのか。

浜田建設課主幹

８号バイパスは魚津市江口から入善町櫛山までをいう。用地交渉の時にはもっと早く完成すると聞いていたが平成８年からだんだん遅れている。取付道路については県道上飯野～高畠線は幅員が狭く不適切なの５００ｍ東側の町平曾川国道線になった。バイパスは黒部のインター線から平曾川国道線間は、平成１４年中に開通予定である。町道も同様に供用開始の予定である。取付道路については県と話をして海のほうへ延長し、将来はＪＲ横断も考えている。そうなれば深層水への連絡道路として有効であろう。バイパスはさらに東へも延長し飯野地区は１２年度中に、１３年度中には青木、上原でも用地買収をしたい。

座長

ＹＫＫ通勤者で渋滞するので供用開始は早められるか、黒部橋が完成したら橋だけでも供用できないか。

浜田主幹

橋は河川管理者の許可がもらえないので橋だけの供用は無理、あと１年ほど待ってほしい。

東狐自治会長

８号線バイパスの会合がある時、区長会長から会合に出てくれと言われたら

出た方がいいか。他の部落はどうしておられるか。

浜田主幹

町が事業主体ではないが、どんな問題があるかわかるので出た方がいいと思う。他の地区では区長も出席している。

東狐自治会長

土地改良区の問題にしても会合があるときは連絡してほしい。

浜田主幹

今後は連絡するように十分気を付けたい。

(2) 「高齢者憩いの家 (仮称) 」の整備について

トーヨー被服の跡地を利用してスポーツ施設を作ったらいかがか。

寺西健康福祉課長

憩いの家と聞いていたので考えてきたことを述べる。入善町の65歳以上の方の9割は元気な方で介護保険の認定を受ける人は1割である。憩いの家は町で新しく建設する計画はない。各地区の自治公民館にシルバーサロンをつくる、空き家・空き店舗を改装するなどしてもよいと考えている。スポーツ施設となると小学校の体育館を利用してほしい。

笹島氏

安い金で土地買収してトーヨー被服を作ったのに草ぼうぼうになっている。

林財政課長

今は富山ゴムに跡地を貸していると聞いている。町もこれではよくないと思い先日岐阜から社長が来られたときに話をしたところ町に任せると言ってもらった。深層水の企業があれば誘致してそこを使いたいと思っているが、不可能な場合はまた考える。

廣田三ツ家区長

トーヨー被服の建物内にタイヤが放置してあるが自然発火するおそれもあるので、申し入れは誰にすればいいか。桜や草の管理もしてほしい。

林財政課長

富山ゴムとは今年５月に契約したがいつでも解約できるとのこと。富山ゴムに申し入れしておく。草等の管理についても同様に申し入れする。

(３) 児童の健全育成について

- ・ 児童館などの児童の遊び場確保
- ・ 非行対策

児童館などの児童の遊び場の確保について町で対策があるか。西入善駅が無人なので夜若者のたまり場になっており、非行につながるのではないか。入善駅も同様になるのではと心配している。

福沢学校教育課長

平成１４年から学校週休２日制になる。このことについて全小中学校児童生徒２６００名とその保護者を対象に意識調査アンケートを実施し、１２月中に結果が出るのでそれを見て今後の対策を考える。非行対策については町補導センターの職員にお願いしており、下飯野地区には８名の補導員がおられるので、その方達に補導してもらっている。

上原生涯学習・スポーツ課長

現在町には中央に児童センター、児童館があるが、各村部にはない。青木には土地改良区から払い下げてもらった建物を利用して遊友館がある。新しく建設の予定はないが、改善センターの学校に近い部屋を子供達に開放していただくよう公民館長にお願いした。今年８月から図書館の移動文庫も設置したので、子供や親御さんにももっとこの建物を利用してほしい。西入善に集まる子供も地元の子である。よその子をしかってやるのも大事であるので、地域の子供として声かけ運動を推進していきたい。

鬼原総務課長

西入善駅で若い人たちがたばこを吸ったり、若い男女のデートの場所になっていると聞いて、地区の防犯組合と協力して夏場だけでもパトロールできないかと考えている。入善警察署の生活安全課にはパトロールの強化を申し入れた。駅はＪＲの所有物なので管理責任者であるＪＲに駅舎内の防犯灯設置を申し入れたいと思っている。

町民

夏場だけでなく１年通してパトロールしてほしい。

鬼原課長

地区の方は夏場だけだが、警察は年間通じてパトロールしてもらうことになっている。

(4) 黒部川の内水面漁業への対応

今年のまちづくり懇談会で地下水位の低下について現状を申し上げ、揚水のガイドライン制定を申し入れた。内水面漁協から地下 120 m から毎分 3 . 5 t 取水したいという話があったが、12 月に反対署名を提出した。今年 6 月に再度試験堀をさせてほしいという申し入れがあったが区長会は了承していない。地下水を大量に汲み上げられると生活に使用している水が枯渇する危険性がある。町はどう考えているのか。

大角農業水産課長

水も有限の資源であり、所によっては水位が下がっているし、黒部側へもかなり流れている。また、内水面の養殖事業の新展開も必要に迫られているので、妥協案が見つければ宜しく願います。実態を把握するための試験堀をぜひさせてほしい。地域振興、地域産業の発展に協力をお願いしたい。

飛島五郎八区長

養殖に反対しているわけではなく、たくさんの水を汲み上げるのが心配である。大量の水だから広い範囲に影響が及ぶと思うので、地元の環境を破壊することは慎んでほしい。

内水面の島田さん

養殖事業にはどうしても今以上の揚水が必要なのでよろしく願いたい。

井田区長

魚が大事か人間が大事かと言いたい。芦崎 4 区 5 区の人たちは水で苦労している。見に来てくれ。

5 . 地元議員 (本多議員) ・助役あいさつ

6 . 閉会 22 : 00

小摺戸地区まちづくり懇談会

平成12年11月1日(水)

19:30～小摺戸地区公民館

出席者 地区住民45名 町当局15名

1. 開会の挨拶（松原勝之区長会長）
2. 町政についての現況説明（米澤町長）
3. 新総合計画についての現況説明（大木企画広報課長）
4. 座談会（座長・長谷川喜一氏）

第1部 まちづくり

（1）入善町農業の将来ビジョンについて

小林与三雄さん

今年の水稻の純収益は15、000円を大きく下まわっている。今年は天候がよく豊作であっても自主流通米は大幅下落している。輸入米の増加も原因である。世界経済の動向、景気、少子高齢化時代、米を食べない。米が余っている。値が下がる。このような状態が当分続くと思われる。最終的にしわ寄せは百姓に来る。プラス志向を持って頑張っている。後世の人に農民が日本の魂を育てていることを伝えていきたい。広報10月号のメッセージ、人・土（土地）・水に大いに期待している。絵に描いた餅に終わらないようにしてほしい。

大角農業水産課長

総合計画の中でのポイント、入善町の今日の農業は水と土が大きなウェイトを占めている。米の消費は昭和30年代の半分になっている。一人当たり1俵ちょっとである。自給率の問題がこれからの農業の方向性を決めるのではないか。また農産物の輸入自由化や米の流通の問題、スーパーなどの量販店での販売、消費者の嗜好の変化などで、変わってきている。しかし、入善町の農業は基幹産業である。国土保全の見地からも農業に対して目が向いている。対策として、

1. 農地の確保。農道、農業用排水路などの基盤の整備。
2. 集落営農と中核農家の育成支援。
3. 稲作だけでなく、野菜、花卉などを取り入れた複合経営。海洋深層水を生かした施設園芸など。
4. チューリップやジャンボ西瓜などの生産・販路の拡大。育苗のばらつきを無くするための育苗供給センターなど、特色ある農業生産を目指す。

５．国内で安定した消費にはブランドがある。有機農業、農産加工施設の建設や都市部へ向けた事業などに支援していく。
これらの事業を町直営、ＪＡ主体、集落主体、グループ主体いずれがやるにしても皆さんのご意見を伺いながら進めていきたい。

小林さん

行政に期待は多くは持たない。自身で道を切り開くしかない。若者がどのようにやっていくかは若者に任せて、町は積極的にこれを支援してほしい。

舟根さん

地元民は農業に極めて強い関心を持っている。入善町の農業は昭和１桁の人たちの頑張りでもっている。もってあと１０年ということを考えなければならない。我々自身がやっていくことだが、行政はそれに対する力添えをしてほしい。コストをいかにして削減するか。担い手をいかにして確保するか。そのための町の考えは？農業公社が必要なら町は勇気を持って進んでいただきたい、農業を守っていただきたい。総合計画に具体的に示しておいていただきたい。

大角農業水産課長

コスト削減問題については、中古農機の有効利用も方法としてあるのでは。そのための指導者の育成と、農家自身の意識改革を（中古でもいい。新品でなくても）どうするか。担い手の確保の問題については、農地の流動斡旋をおこなうよう、農協からも言われている。経営を受託できるような農業公社の設立についても考えている。

第２部 地域課題

（１）小摺戸保育所の将来について

・少子化の中、児童が減少した場合町として保育所の将来の展望は？

秋元さん

保育所児童数が減少しており、平成９年以降は３０人位になる。今後、継続してこの場所で保育所をやってもらえるのか？このまま子供の数が減ったら合併ということになるのか、規模が小さくなったらやっていけるのか。芦崎保育所のように未入所児童や高齢者も受けるようになるのか？保育士の配置も子供たちに余裕を持った配置をお願いできないか。

寺西健康福祉課長

児童減少に伴う合併や廃止については、平成８年から入所者は横這いの状態

であり、平成9年から確かに減ることはあるだろうが、3歳以上は全員入所、3歳未満児を入れると50人近くなるので今のところ合併・廃止は考えていない。5人、10人と極端に減った場合はわからないが、芦崎での未入所者の子育て相談は月に7～8件ある。お年寄りとのふれあいの部屋は作ってあるが、実際来所してもいっしょにふれあうことがないので、利用を呼びかけている。保育士の問題は厚生省の基準に従って補助対象にもなっているなので、年齢別段階において保育士を配置するといったことになる。

町民

総合計画の中で将来の人口の推移を記しているが、それから考えると小摺戸保育所は兼託老所ということになるのではないかと？

寺西健康福祉課長

少子化になってほしくないという思いだが、だんだん少なくなるとお年寄りとのふれあいの場は大切であり、子供も喜ぶと思うので託老も兼ねた形でやっていければよいのではと考えている。

秋元さん

町は少子化問題に対して解決策としての制度などは考えていないのか。

寺西健康福祉課長

少子化対策の町の政策として第3子に30,000円、第4子以降には50,000円の手当を支給している。

林財政課長

今年度から就学前児童の児童手当の拡大、医療費の無料化、3歳未満児の保育料の引き下げなどを行った。近年、新幹線の測道を第2のスーパー農道化と計画している。新黒部駅ができれば早ければ10年でここがベッドタウン化するのではと期待している。

(2) 新幹線建設に伴う問題点

・工事着工に伴い沿線住民の諸公害や諸条件に対する町としての対応は？

若島さん

工事着工以来1年経過したが、いろいろな弊害や私たちの生活に影響が出ている。

1. 夏場いい天気が続いたからほこりで廊下が真っ白になったり、洗濯物が外に干せない。音がやかましくて夜勤者は昼間寝てられない。このような沿

線のものに対する生活保障についてどうなるのか。

- 2．新屋地区で新幹線とは関係ないものまで要求して勝ち取ったと聞いた。どういうことがあったのか。
- 3．夏コンクリート打ちをした後大量の水で冷却しその水をそのまま流されてしまった。地区住民が使用している地下水に問題ないのか。掘削のあとの溶接棒などの残材をまとめて埋めていた。撤去しなくていいのか。誰が撤去するのか。

松島建設課長

小摺戸、若栗新、一宿は住民の理解と協力により用地交渉もいち早くまとまって、小摺戸、新屋地区で高架橋工事が始まっている。工事用道路や代替道路などを使用するなど地元で迷惑がかけられないように鉄建公団は注意しているが、生コン車、高所作業車、工事車両などの通行量が多いため迷惑をかけていると思う。工事には騒音はやむを得ないかもしれないが、できるだけ出ないように指導を行っていきたい。両地区の対策協議会と二人三脚で鉄建公団や県に強く善処方を要望していききたい。個々に対する生活補償は県は無いといっている。

新屋地区での便乗問題は当初からの問題と新たに出てきた問題とある。たとえば太鼓等の練習場（郷土芸能伝承館）の建設については以前から町に要望されていたもので補助対象と合わせてまとめたものである。アクセス道路としての新屋入善線の早期着工拡幅については早く直していききたい。

汚水問題については技術上汲み取るといったような対処はできない。しかし、水による害については通常認められている範囲ではないか。こういう工事においては掘った物をもとの場所に埋め戻すということになっているが、工事の残材までいっしょに埋めていたという話は、いま初めて聞いた。場所が分かっているのであれば業者に掘り返させるので、場所を教えてほしい。今後もこのような問題がでたら、直ぐに知らせてほしい。

騒音の話では住民環境課で騒音の数値を測定したが70デシベル以下だった。許容の範囲とは思いますが最近3交代制の方が多くなったので影響が考えられる。今後も外部に音が出ないように仮設塀を立てるなど業者に厳しく言う。

町民

地元で計ったら95デシベルあった。

松島建設課長

10月23日に50m離れたところで測ったら最高は11:00で75、14:30で66デシベルだった。

松原区長会長

測る位置が違うからだ。もっと現場近くの住民の意見もある。

野坂さん

黒部川でヘリコプターを飛ばしているので騒音がやかましい。機会があったら町から注意してもらえないか。

松島建設課長

それはパラグライダーではないか、消音機がついていないのでエンジンが小さい割に大きい音がする。その頃全国大会があったので2日だけで終わった。

福澤勇さん

陸堀の砂利トラが頻繁に通る。同じ道を通らず、分散して通行するように指導できないか。

松島建設課長

分散するとなるときちんとした道路が必要。工事用車両については上飯野新小摺戸線あるいは県道を通らざるを得ない。埋め立て用の山土砂を運搬するのがよく通る。アサヒ飲料もでき交通量が多くなったと思うが、道路を通るなとは言えない。原石の採掘場がきまっていることもある。交差点に近いためブレーキ音や発進音が特にひどいので、業者に啓蒙していきたい。

福澤さん

工事用トラックはなるべく黒部の堤防の道路を通ってもらえるようお願いしたい。

(3) 下水道に関する問題点

・下水道施設の将来の運用について、維持管理に伴う諸経費等町としての方針は？

福島地内から合口用水まで3.1kmあるが、ポンプアップしても安全で心配ないのか。

他の町で今まで事故はなかったか。もし事故があった場合の地元への補償はあるのか。維持費の問題、使用料は変わらないと話していたが施設が古くなっても変わることはないか。下水道工事の落札価格について、25～27%前後の低価格で落札されているが、手抜き工事の心配はないか。

小森下水道課主幹

ポンプアップの件については8号線から合口用水まで3.1kmあるが、実際はこの間にマンホールが4ヶ所あって2.6kmであり、自然に流れる位置までが長いところで1km、短いところで400m、マンホールにポンプ2台を入れて1台が故障した場合はもう1台が作動する。また委託業者が定期点検に回り、故障の時は警報がなるので、ただちに対応できる。影響度については、当地区よりも多い場所もあるが、これまでに被害はないと聞いている。施設の不備、管理のずさん等により皆さんに損害を与えた場合は町で補償をするつもり。

使用料については、町条例で決めており新屋地区の工事が終わるまでは変えるつもりはないが、経済情勢や物価上昇の折は変動もあるかもしれない。小摺戸地区のみの確約書と言うわけにはいかないのご理解を。工事の落札価格については、10月分まではこの数値のものはない。請負金額の多少に関わらず検査をし、悪い所は手直しさせているので、あくまでも設計書どおりに施工されているので手抜き工事の心配はない。

野坂さん

魚津では生ゴミ等も処理できるらしい。そういったことを今後行うとしたら使用料はどうなるのか。

小森主幹

町の方では許可はしていない。もしつけるとなるとみなさんが別に処理施設を作らなければならないが、そうなっても使用料については変わらない。

若島さん

以前アサヒ飲料が増設したいといっていたが、水を大量に汲み上げるので誰が反対したのか、計画がなくなってしまった。総合計画でいっている地下水の利用について、将来利用料を2倍にするということが可能なのか。黒部市では水資源対策協議会と言ったようなものがあるらしいが、町としては水資源の活用について考えはあるのか。

大木企画広報課長

地下水についてはこれから再調査する予定である。15万tとあるのは、使うというのではなく、使えるのではないかという指数である。地下水の調査をした後、保全と活用条例の制定を進めていきたい。

小林与三雄さん

町長から一言農業について聞きたい。

米澤町長

農業については大変心配である。町の基幹産業でありながら、具体的に町は何をしてくれるのかといったことを聞いておられると思う。集落営農、公社を作ってやっていけるのか、会社形式にすればどうかと言う話もある。また国土の保全も大切であるし、後継者問題も切実である。８％が専業農家、９２％が兼業農家であるため、専業農家に任すのは不可能。これからの農業を守るには水と土を生かしての企業誘致も必要ではないか。若者を都会から呼び戻し農業と年寄りを守っていけるようになればと思っている。来年扇状地から海に流れる水の量を調査することになっているので、この結果を見て皆さんに意見を聞きながらやっていきたい。

福沢さん

地下水の使用については入善町だけでいっていてもしかたない。扇状地としての問題ではないか。黒部や朝日の首長クラスで地下水対策協議会のようなものを作っていかれてはどうか？

鬼原総務課長

黒部川地下水対策協議会は黒部・入善・宇奈月で結成されている。地元の企業も会員となってもらい、１年に１回ないし２回の研修等も行っている。町議会でも地下水保全条例を作ればどうかという意見が出ているが、条例を作って規制すると企業誘致の面で入善が不利になることも考えられるので対策協議会の中で協議していく考えである。

５．町長あいさつ

６．閉会 ２１：３０

新屋地区まちづくり懇談会

日時：平成 12 年 11 月 16 日(月)

19:30～新屋地区公民館

出席者：地区住民 48 名、町当局 15 名

1. あいさつ(腰本区長会長)
2. 町政についての現況説明(米澤町長)
3. 新総合計画について現況説明(大木企画広報課長)
4. 座談会(座長・水野博公氏)

第 1 部 まちづくり

(1) 農業の経営強化について

長谷川さん

農業は町の基幹産業である。しかし、米価の下落や転作面積の拡大など農業経営者を取り巻く状況はたいへん厳しい。町の農業を支えているのは兼業農家、自己完結型農家ではないか。JA を含めて対応が遅い。農業公社的な機関の設立を早くして欲しい。今までも提言されていたが未だに見えないのはどこに問題があるのか、お聞きしたい。

もう 1 点は下水道管を利用した光ファイバー網を引くという新聞記事を見たが、それらを利用した総括的な農業支援システムはないか、お聞きしたい。

大角農業水産課長

指摘のとおり農業は厳しさを増している。農業の全体をとらえると、担い手の問題、集落営農の問題もある。従来の自己完結を 1/3 にしたいと町は考えている。担い手についてはなかなか確保が難しい状況である。昨年の例では、水稻ではなく、切り花等で 3 名が就農、今年は 2 名が就農している。新規就農者については直接資金を助成しており、融資の体制も変わってきている。

農業公社については農協から第 3 セクターのような形でという提言があった。総合計画でも検討しているが、農地銀行など現在の制度、機能の活用がなされているのか、新規就農への助成、農地の集積、斡旋だけで機能が足りるのか、自ら経営する、あるいは協業化への道も検討する必要があるのではないか、など課題が多い。農業規模の縮小拡大について意向調査したところ、新屋地区では規模を拡大したいという意見がほかの地区より多い。このような意向と農業公社の設立と協業化とのすりあわせが大切ではないかと考えて

いる。公社は手だての一つではあるが、運営、運用が大切であり、検討を重ねていきたい。

大木企画広報課長

光ファイバー網を利用した総括的な農業活用システムについてであるが、現在、町には光ファイバー網を利用した CATV を立ち上げるという計画がある。光ファイバー網を利用したシステムでは、様々な情報を皆さんと共有できるようになる。農業情報についても気象情報、防虫情報、農村番組など必要な情報を常時提供できるのではないかと考えている。CATV の整備が前提ではあるが、農業の支援という側面からも情報化を推進していきたい。

第 2 部 地域課題

(1) 新屋地区への活性化対策について

松原さん

こういったことは、若い年代や女性の方が主役になるべきであるという反省もこめて私のほうから意見を述べたい。

一般には活性化対策には財源が必要と言われているが、企業人口を増やして納税人口を増やせばよいのではないか。まずは、自然環境を生かし企業誘致を進めてはどうか。例えば医療関係の企業など自然環境を有効に活用できる企業の誘致により企業人口の増加を図ってほしい。

次に地域規模に見合った公共施設を整備すべきと思う。居住人口など地域に見合った公平な投資をお願いしたい。新屋地区の安い土地を生かした養護施設、老人ホーム、福祉関連施設や公営の集合住宅などの建設が必要。新幹線などの交通インフラを生かした施設整備を図るべき。また、災害への対策の面からも、地震による富山湾の津波や温暖化の海水面の上昇等の災害に対応した公共施設の設置場所として、それなりの海拔を持っている新屋地区が最適ではないか。

飛田商工観光課長

町には 1 2 0 の事業所があり、約 4 , 5 0 0 人が働いている。地形的には約 7 割が扇状地であり恵まれた自然環境である。4 月から東京・大阪で企業まわりを行い、企業誘致活動を進めている。

散居村サミットの参加市町のうち、砺波市と出雲の斐川町が人口増になっている。砺波は松下、斐川は、富士通他 2 社の誘致に成功し、若者も増えている。企業誘致の盛んなところは地元で約 9 割が就職できる状態である。現在、扇状地の豊富な水資源について企業に積極的に働きかけを行っている。特に IT 関係にも働きかけているが、一つのメーカーに対して複数の自治体が

企業誘致をかけている現状で、すんなりとはいかないが、頑張っている。

松原さん

たとえ効果が小さくても確認できるようにお願いしたい。

林財政課長

地域規模に見合った施設整備をということであるが、新屋地区は納税人口にすると8.4%を占めている。当地区の公共施設としては、保育所等を除くと南部コミュニティセンター、フラワーセンターのほか、今年度には郷土芸能伝承館の建設に入る。住吉太鼓の練習など大いに利用してもらいたい。また、墓ノ木自然公園について、建設省と町では別々の事業ではあるが13～14年度で整備していきたい。下水道事業の着工も早めて行う予定。他の地区にはない下山発電所美術館などもあり、決して他の地区と比べて劣っていることはないはずである。社会資本の整備についても同様で、幹線道路も整備されており、スーパー農道、県道入善宇奈月線の改良や新幹線の側道などがある。こういったことは、必然的に人口増対策にもなる。このような既存施設を有効に活用し、活性化対策への地域の方々の協力をお願いしたい。

寺西健康福祉課長

養護施設や福祉施設の設置についてであるが、町全体からみて地域の特性や必要度に応じて設置されるべきものと考えている。現在は、特別養護老人ホームが舟見に、老人保健施設が小杉に一つずつ設置されている。また新たに特別養護老人ホーム「おあしす新川」が上野に建設され、来年の秋ごろにオープンする予定である。これらの施設の建設・管理運営は社会福祉法人などの民間団体が行っており、建設計画がなされれば、町が側面からサポートしていくことになる。

鬼原総務課長

自然災害と公共施設の設置についてであるが、施設のあり方としては集中と分散が必要である。コミュニティ施設などはある程度分散して設置し、地域の皆さんに利用してもらうことが大切であるが、大規模な施設については付加価値を高めるため集中して設置したほうがよい場合や人口集中地区に建てる必要があるものもある。自然災害的要因も考慮すべきではあるが、社会的要因、施設の付加価値を高めることなどを優先して建設を考えていくべきである。

松原さん

町政ビジョンとして素人にわかりにくいものが多い、なにか具体性のあるビジョンが必要。恵まれた資源があるのだから、積極的な活用等について姿勢を示してもらいたい。

座長

人口増対策と関連するが、少子化について町の変化、問題、対策などについてお聞きしたい。

大木企画広報課長

人口構成について65歳以上は増加する一方、若者の流出や少子化の影響などで人口が減少している。町としては、少子化対策＝子育て支援と位置づけし、保育サービスの充実などを推進する。延長保育などの子育て支援や児童館を利用した放課後の学童保育、サンウェルにおける乳幼児の保育支援など子どもを生み育てやすい施策を総合計画上位置付けし、積極的に展開していきたい。

森田さん

墓ノ木自然公園の整備について詳しく教えてほしい。

松島建設課長

墓ノ木自然公園は、今年度から3か年にわたり町で整備する。建設省は2年の計画である。自然公園であるので、なるべく自然のままを残し自然を生かして利用者に喜んでもらえるような整備を図る。河川敷なので井戸を掘ることができないため、配管にて引いて飲料水を確保し、炊事場を2棟作った。トイレは1か所増設、太陽光を利用した街灯も1つ増やした。あどべんちゃあ祭り時にはトイレの不足が問題になったので今後も整備していきたい。第3キャンプ場の整備も計画している。橋も老朽化しているので栈橋の補修や三叉路の舗装なども自然に優しい形で行っていく考えである。建設省とも相談していきたい。建設省はグラウンドの再生をしたいということらしい。また、有事の際のヘリポートとしての使用も考えているようだ。黒部川の右岸整備方法について親水性などをどのように整備すればよいか要望を聞かれた。グミの木を植林しており、色づきはじめているところもあるので、新しいグミ林への道なども検討したい。

森田さん

自然保護団体の方等も含めた整備協議会のようなものの設置を考えていな

いのか。自然を残すばかりではなくある程度手入れされることも必要。もっと関係者との連携を図られたらどうか。また、下山美術館については、それだけではそんなに人は来ない。坂道などの開発や遊園地のように大人も子供も自然を楽しめるような整備を図る必要がある。多目的に考えて、計画委員会等を立ち上げ検討すべき。企業誘致は町だけではできないが、墓の木や美術館の整備は町でできることだと思うので、積極的に推進してほしい。

松島建設課長

自然公園について補足して説明するが、墓ノ木の植生が変わってきている。水際に生息する柳が枯れて松が生えてきている。かつての姿を取り戻し生きた釣り場にするため堤防のそばに水を回してもらえよう建設省、電力会社との協力を得ながら整備していきたい。沢スギなどのように現状を保つために手を加えなければならない自然環境もある。そのことも踏まえ、建設省と連携しながら整備をしていきたい。

林財政課長

町は少子化対策や人口増対策のため分譲宅地の造営、児童手当の拡大、保育料の軽減、小学生までの通院・入院の無料化、早朝保育、育児相談など財政的な手当を多く行っている。しかし、少子化にはなかなか歯止めがかからない。若い人たちに1人でも子どもをたくさん生んで欲しい。美術館周辺の整備については、今後、皆さんの意見を聞いて検討していきたい。

中林さん

来年度の転作の状況はどうなっているのか。また、ITについてサンウェルで講座の申し込みをしたが、抽選もれをした。再び申し込んだところ今度は大丈夫だったが、もっと台数を増やして多くの方が利用できるようにしてもらいたい。若いお母さんたちが安心して子供を産み、育てることが出来るような環境や体制を作ってもらいたい。例えばランドセルの無料配布などはないのか。

大角農業水産課長

転作問題については、富山県では約30%を超える数値がきている。新幹線への土地譲渡や、宅地転用などの数値も加えて修正するが、今年は25.1%、来年度は27.3%ほどになるのではないかと考えている。

大木企画広報課長

サンウェルのパソコン教室については、年代やニーズに応じて各種開催し

ているが、当初予想の２倍、３倍と参加希望があり、うれしい悲鳴を上げているところである。これからパソコンの設置台数を増やす計画があるので、ご理解をお願いしたい。

寺西健康福祉課長

子育て支援として保育所の土曜の保育時間の延長を２か所の保育所で行う。また、平日の保育についてもすべて午後６時までにする。一時保育なども行っているし、ベテラン保育士による子育て相談も行っている。児童館でも子育て相談を受けている。

林財政課長

ランドセルの無料配布については、実施しても少子化の根本的な解決にはならないと思われる。それほど大きな財政負担にはならないが、ランドセルの購入は家庭でのふれあいに逆に一役買うのではと思う。

長谷さん

青少年の社会教育についてお聞きしたい。新屋の鬼はどこにいるのか。昭和４４年に起こった堤防の決壊は人災ではないか。新屋の米代金と発電所ひとつの電気代金のどちらが大きい。一昨年、北陸電力の苦情係に聞いた「当たり前」と言われたが、発電所ひとつのもうけのほうのはるかに大きい。青少年の段階からの社会教育に力をいれてほしい。

住民の方

農業集落排水について、建設省管轄の公共下水道のほうへ合流するというような話をきいた。計画の変更等について説明を。

本多下水道課長

農水省の事業で計画の見直しがあり、新屋地区に浄化センターを設置せずに五十里の処理場へ持っていく、農排と下水をつなぐということになった。１０月に県の方から計画変更しなければならないと突然、言われた。その理由は全国的に公共事業の見直し中で、下水道事業も例外ではないということらしい。そのために、今回の見直しとなった。現在、検討課題や問題点の洗い出しを行っている。下山の地区の方にはお話ししており、議会などにも事情を報告している。当地区の下水道の整備計画は遅らせないと県などと話をしているので、供用開始などが遅れることはない。

５．地元議員（長谷議員）・町あいさつ

６．閉会 ２１：３０

梶山地区まちづくり懇談会

平成12年11月6日(月)
19:30～梶山地区公民館

出席者 地区住民68名 町当局21名

1. 開会の挨拶 (中川久義区長会長)
2. 町政についての現況説明(米澤町長)
3. 新総合計画についての現況説明(大木企画広報課長)
4. 座談会(座長・青木大政氏)

第1部 まちづくり

- (1) 地震等の災害時における町の対応について
・高齢者家庭やひとり暮らし家庭に対する防災

吉田保さん

1か月前には鳥取の地震があった。地震情報がTVでは3分間隔で流れていた。新潟・福井と来ている。残りは富山・石川。もし災害が起こった場合、相当ひどい結果になるのではないかと。地震が起こった場合、家屋の倒壊、火災、水害、津波が起こるのでは。黒四ダムが決壊したらどうなるのか。完成してから3年かかってたまった水が一度に襲ってきたらどうなるのか。コンクリートの寿命も気になる。JRトンネルの崩落、高速道路のクラック。副次的な災害としては停電、通信の停止も考えられる。携帯電話も基地群がやられる。有線もやられる。公共の非常通信の手段はどうなるのか。一般町民への速報を一分一秒も早くお願いしたい。町が今どこまで対応できるのか、また、これから補っていく予定は?

鬼原総務課長

富山県は昔から地震のない県といわれているが朝日町に黒菱山断層という活断層がある。黒四ダムが崩壊すれば、3時間ぐらいで80km下流にある入善まで水が来るのではないかと。情報の伝達の問題もある。コンクリートの寿命については保守点検が法律で定められているため、毎年点検されている。仮に問題があった場合は建設省へ通知され、市町村に入ってくる。災害が発生した場合、また予見される場合の情報伝達については、町の防災無線でお知らせする。県との通信は衛星通信と無線通信の両方がある。これらの電源については非常バッテリーがついているので電源の確保はなされていると考えている。今までも活用しているし、今後も防災無線で伝達したい。

島田昭與さん

入善町には65歳以上は6700名余り（23%強）、そのうちひとり暮らしは740名余りいると聞いている。これらの高齢者やひとり暮らしに対する災害時の防災対策はどうか？

寺西健康福祉課長

梶山地区にはひとり暮らし老人は30名、高齢者家庭は21世帯あるが、町ではその家がどこにあるかまでは把握していない。災害が発生した場合初期の防災活動が重要であり、近くに住んでいる方々が安否の確認を行ったり、避難誘導をすることが大切なのでは。身体障害者や寝たきり老人の方々についても同様では。ぜひ地域ぐるみの助け合いをお願いしたい。

鬼原総務課長

初期活動には町も手が回らないのが実態である。弱者の方の場所もわかりにくいので、ぜひ地元の方々の協力をお願いしたい。避難の方法については町が行っている防災訓練がある。人口密集地については地域ごとに自主防災組織の結成をお願いしている。今までに入善、舟見、飯野で作っていただいた。梶山地区でも防災訓練の実施と自主防災組織の結成をお願いしていきたい。避難場所や心得を書いた防災マップもあるので、定期的に皆さんに配布していくことも考えていきたい。

・消防団員の後継者不足と補充

前田勝義さん

昔は農家の跡取りや職人など、消防団活動に融通の利く方が多かったのですが、欠員が生じてすぐには補充できた。現在は職業が多様化し、交代制などがあってなかなか参加しにくい現状である。梶山分団は30名だが、2～3名が常に定員不足であった。桜台の方から2名参加していただいて、やっと定員を満たした。

座長

梶山地区では団員不足、なり手がないうとき65歳以上のOBに入ってもらえばという話も出ている。

米澤町長

消防団の方には町の皆さんの生命、財産を守っていただけて感謝している。もし、地域に何かあった場合、誰をお願いするかというと最初に浮かぶのは消

防団である。消防団は大変なボランティアであるということを地域の方にも理解してもらいたい。時には命を懸けることもある。ＯＢの方と現役の方の交流を持ちながらやっていくことが大切だろう。

上野消防署長

入善町は３７５名の定員だが現在３６５名がおられ、１０名欠員である。全体の半分近くが会社員なので大変。そんな中から、火災になると８０％以上の方が出てきていただいているので感謝している。報酬については県下で一番高い。日頃の火災に関しては現役の団員にお願いするが、大規模災害が起こった際にはぜひＯＢに協力をお願いしたい。自主防災組織のリーダーとして活躍してもらいたい。やはり自分たちの地区を守るのは自身であることを覚えていただきたい。ＯＢの方々に期待する。

座長

ＯＢとして登録した場合、火災等で危険を伴うので保険に入れてほしい。

上野消防署長

火災時は現職団員でお願いしたい。大規模災害時には自主防災組織のリーダーとして、ＯＢの方々の協力をお願いしたい。今のところ登録はできないと思うが、検討したい。

谷口議員

団員には農協職員が多いが、今年役場の職員も何人か入ったと聞いたが説明してほしい。

上野署長

入善分団には４名が入っているが、必ずしも役場職員が入るものでもない。班で欠員が出た場合、不足した班から出すのがよいのではないかな。

２．町の基幹産業である農業について

上島さん

海外からの日本へ向けた輸出をみていると日本の農業はますます危ういのは。農業の担い手不足という大きな課題が身の回りに迫っている。集落営農や農業公社と言った言葉が出てきているが、集落営農とはどういったものか。農業公社というのは。その採算性、運営の仕方について説明を。

大角農業水産課長

豊作貧乏の一言につきる。近年米の消費量は昭和30年代の半分に減っている。その代わりに乳製品や畜産物に移りつつあるし、食糧自給率は日本全体で40%を割っている。県としては平成7年度から集落営農の組織化を始めている。地区によって話し合いを進めていかないとまとまらない。組織化したところでは、今年小摺戸でせせらぎ営農組合ができた。近いところでは君島と藤原でやっている。中核農家を主体にしてやっていくやり方等がある。

収益面を所得分配するやり方は町には今のところ無い。形態をどのようにするかがポイント。集落営農そのものが農業を営むことが必要ではないかと考えている。農業公社については、JAの下部組織として検討委員会を作った。その中で、農地の流動化を斡旋することを目的とする農業公社を考えており、担い手への斡旋を行っていく。地区を越えて行う転作等の問題を解消していく。これからは集落営農を進める一方、公社で農業を進めていけるような体制をたてていくことが大切。総合計画でもそのように考えていく。

上島さん

米価の値下げについては厳しい現状。思いもしない下落が考えられる。コストの軽減を考えているが、土地改良区の負担金が重い。また、小作料費も同様。とはいえ、小作料費を下げると地主側に負担がかかる。人をお願いした場合、採算がとれないモノは受けてもらえない。横山地区の米田さんは米の下落によって農業に対する夢のある言葉をかけることができなくなったとか。チューリップ、西瓜等もやっているが後継者が不足していて先細りしている。このことについて町は何か支援しているか。中島さんの電照菊も同様。

松島建設課長

土地改良区の負担金は事業に対する賦課金と経常賦課金がある。高いところで2600円、安いところで1800円である。町では10アールあたり150円の補助金を出している。経常賦課金については土地改良区の統廃合を提案している。四千石と愛本新は2町にまたがるので難しいが、それ以外の改良区については平成14年4月に統合をはかりたい。賦課金は安くなるかわりに統合の経費もかかるが、統合に前向きに取り組んでいきたい。

大角農業水産課長

米田さんの息子さんは平成13年度から新規に農業に就かれる。このような新規就農者には助成金を設けており、総事業費1500万、園芸なら2000万の半分を補助する。菊の中島さんについても暖房設備、結束設備など事業面からの支援をしている。さらに町の支援を進めていきたい。

第 2 部 地域課題

(1) ゴミ収集についてのお願い

杉田さん

梶山地区は月曜がビニール・プラスチックの収集日になっているが、第 2 週目のビニプラの日が金属の日になるため、祭日と重なったとき翌週にずれるため、金属とビニールが混ざってしまう。金属類の第 2 をはずして別の金属類の収集日を設けてほしい。また最近特に多いビニールの収集について特別の収集日を決めてほしい。4 月に配布されるリサイクルカレンダーに表示してほしい。上原のような資源物再生広場を横山と梶山の間で作ってほしい。

大沼住民環境課長

別の日に金属の日を設けることは今のところ難しい。それよりも不燃物の出し方についての啓蒙をもっと進めていきたい。特別収集日については、お盆などの緊急の場合、ビラを配ったが周知が徹底しない。リサイクルカレンダーにのせる場合、ゴミの量や業者の仕事の段取り等で日程のすりあわせが大変難しいため、結局直前にビラ等でお知らせした。来年からはある程度調整はできると思うので、4 月当初にカレンダーに載せるようにしたい。再生広場は上原にしかない。役場にあるのは入善地区の資源ステーション、全体で 103ヶ所ある資源ステーションの 1 つと考えていただきたい。新しい再生広場の設置については、町の東、山手、西というふうに増やして、将来的には各校下毎に 1 つずつ作りたいと考えている。環境問題については地域の皆さんのご協力を今後ともお願いしたい。

座長

カレンダーを大きく見やすくしていただきたい。ゴミ集めのランク付けを公開してはどうか。そうすれば地域住民の意識の向上になるのでは。

大沼住民環境課長

大きいとはる所がないという人もいるが、レイアウトはもっと見やすいように検討したい。

(2) 梶山交流センター早期建設と旧梶山小学校の取り壊しのお願い

小杉さん

梶山小学校の取り壊しについては交流センター建設推進委員会などで検討した結果、長期的な使用方法にあまり名案がなかった。存続についても明確な案がなかったので、取り壊して再開発をと町へお願いした。保育所建設が来年着

工と聞いた。センターの建設については梶山地区の要望に応えるかたちでお願いしたい。町当局の計画があれば、お聞きしたい。

大木企画広報課長

保育所は１３年度に完成の予定である。交流センターについては１４年度から着工する。学校の取り壊しについては保育所の建設に合わせ１３年５月までに取り壊しをする。

その他

高見さん（小杉）

事前に提案してある質問について箇条書きした回答をこの場で配布していただけないか。

大木企画広報課長

事前に区長さんから聞いた話と質問者の内容が違うことがあるので、難しい。

高見さん

新総合計画について、地下水の保全に陸砂利の規制が含まれているのか。深層水を大量に汲み上げると地球の環境に影響があるときくが、その点はどうか。梶山小学校の取り壊しを決める前に町は専門官の鑑定を受けたか。依頼しなかったとしたら、なぜか？

大木企画広報課長

地下水の保全と汚染については、これから地下水量等を調査していきたい。陸砂利は県の事業のため規制は難しいが、水質保全ということであれば働きかけることも考えたい。小学校の鑑定はしていないが、取り壊しについては当初から地元住民からの強い要望があったことや、有効な利活用の方法が見つからなかったこと、併せて、維持管理上の問題などがあり特に鑑定は行わなかった。

大角農業水産課長

取水そのものについては海水の９０％が深層水なので問題ないが、海に排出する際にどのようにするかが問題だと聞いている。１時間あたり百トン汲み上げる予定で使用用途に分けて分担する。養殖等に使うので濾過対策等には充分気を付けていきたい。

５．地元議員（谷口議員）・助役あいさつ

６．閉会 ２１：４５

横山地区まちづくり懇談会

平成12年10月28日(土)

19:30～漁村センター

出席者 地区住民69名 町当局15名

1. 開会の挨拶(黒部恒一区長会長)
2. 町政についての現況説明(米澤町長)
3. 新総合計画についての現況説明(大木企画広報課長)
4. 座談会(座長・池原賢晴氏)

第1部 まちづくり

- (1) 高齢者や若者が住みやすいまちづくり
 - ・自然環境(河川、海岸、田畑)を生かしたまちづくり
- (2) ボランティア活動で結ばれるまちづくり
 - ・ボランティアグループの育成

黒部区長会長

古黒部の東の河川地帯や、海岸地帯は扇状地の末端であり、三角州であり、米作りの場である。地区民とボランティアの協力で成り立っている。

栗虫さん(古黒部)

小川の横に住んでいる者ですが、毎年6月にクロワンカイという組織の会員40名で左岸の草刈りを行っている。右岸は前からきれいなので見かねて7～8年前から始めた。どうして左岸だけきれいにしてもらえないのか。また、公民館長が中心となって海岸清掃も10年以上やっている。8号線から海岸までの間に2カ所堤防がコンクリしてないところがある。水害があったら堤防が耐えられるのか。陳情もしてある。また、釣りに来る人も多く、小川河口付近のカーブで事故が起きる前に対策を講じてほしい。安心して生活できる生活環境にしてほしい。10年ほど前に黒部市と横山に「水辺空間」を作るという話が区長会長にあったと思うが、その後何の話もない、中止になったのか。

松島建設課長

小川、入川、舟川は、県の管理である。小川の堤防の草刈りについては、若干の補助金が出ると聞いているので、入善土木に話しておく。テイスイ土岸については土木に陳情済み。左岸の海岸近くの暗渠については普通車は問題ないが、最近は車が大型化しているので建設省にお願いしてみる。

林財政課長

水辺空間構想については聞いたことがない。

木本助役

町や県ではなく、地元としての要望だったのではないか。

亀田さん（横山）

横山海岸は2, 3年前階段ができて、水に親しみやすくなって良くなったと思うが、10月横山地区公民館主催の「みてあるくふるさと」に参加したところ、黒部や魚津の海岸は全体が公園のように非常にきれいに整備されている。魚津にはサイクリングロードがあり、石田にはモーターボート、ヨット、フィッシングなどのできる所がある。漁港、灯台やお台場など歴史的な場所も多く、海に親しみやすい環境が作られていて平日にもかかわらずたくさんの人が訪れていた。それに比べると入善海岸はおくれているのではないか。時間がかかってもいいから入善（横山）も将来に向かって夢のある海岸づくりをしていきたい。総合計画にのせてほしい。

今度は海の見える横山地区に第3の特養ホームなどの福祉施設を作ってほしい。官庁で無理なら民間施設の誘致でもいい。

松島課長

入善町の海岸は、芦崎漁港から園家が農林水産省、あとは建設省の管轄で護岸整備されてきた。魚津や黒部のおだやかな海と違って、入善の海岸は生やさしいものではない。50トンのブロックさえ引きずり込まれるような海岸である。建設省の海岸については環境保全を第一に考えている。入善町では3カ所まだ離岸堤のないところがあり、古黒部地区も離岸堤の整備をしていきたい。国会議員、県議とともに建設省に陳情している。建設省では民家のある所から離岸堤工事をやると言っており、海岸整備については海岸出張所で整備していただくよう話をしている。ダム建設も終わり今後は力を入れてもらえると思う。

寺西健康福祉課長

将来的には第3の特養ホームは必要と思うが、おあしす新川が、来年からオープンを予定しているところなので、今直ぐには無理だと思う。

横田さん（八幡）

公共下水道の終末処理場は風向きによってにおいが流れてこないか心配である。森林で囲むなど自然にやさしい配慮をされ、迷惑施設の施策として特養ホームなどの福祉施設を誘致してほしい。

米澤町長

臭いの問題については周りを整備し、迷惑をかけないようにしたい。また、木を植えたり上をゲートボール場などのスポーツ施設にしたい。昔と違って今の施設はそういうことに関してはかなりよくなっているので心配ないと思う。

住民

臭いがしてから対策をとるというのは後手になるから、夏場に窓を開けられなくなることをないよう、風の流れなども考えてぜひ対策を事前に、そして迷惑施設としてのフォローをよろしく。

木本助役

現在建設中の浄化センターは技術の進歩により大丈夫だと思うが、万が一の場合に対して十分に注意する。代替え施設については総合計画でも考えていると思う。

第二部 地域課題

(1) 児童の健全育成

- ・ 児童館などの建設、整備
- ・ 遊び場、活動の場の充実
- ・ 旧横山小学校跡地周辺の整備活用

黒部区長会長

まもなく学校週休 2 日制になるので、子供たちのために学習やグループ活動の場、遊び場などを配慮してやりたい。旧横山小学校跡地を整備し、活用したい。

寺西健康福祉課長

児童の健全育成という面から児童館の建設をということだが、少子化問題は大変重要な問題であり、子供を生み育てる環境づくりの整備が必要だと思う。児童館については、昨年 4 月に入善小学校北側に児童センターをオープンした。もう 1 つは上原の雇用促進住宅のとなりに西部児童館がある。児童センターには 1 日平均 20 人ほどの子供たちが訪れ、桃李小学校の児童も放課後利用している。ただちに 3 つ目の児童館建設は考えていないので児童センターを利用してほしい。

米島教育長

学校完全週休 2 日制の目的はゆとりと家庭での学習である。現在、小中学生

の実態調査をしている。放課後、土日、休日に子供たちがどうやって過ごしているかを全校生徒を対象に保護者の方にも協力していただいて調査している。その実態を見て、たとえば公民館に子供たちの場を作るとか学校の空き教室を利用して老人と交流するとか、総合計画の中で対策を考えていきたい。

上原生涯学習・スポーツ課長

青少年の健全育成という面から、漁村センターを子供たちに開放してほしいと管理者にお願いしている。ここには図書館の移動文庫を設置し、漫画などの本を置いている。問題はセンターが通学路に入っていないので、休みの日や放課後に利用してほしい。子供達の憩いの場になればいいと思っている。また、各地区の自治公民館も開放していただくよう公民館長さん方をお願いしたい。

小学校のプールが残っているが順次取り壊されると思うので、跡地を横山地区の中心として一体的な開発ができる場所と考えているのでどう利用したいか聞かせてほしい。子供たちは家に閉じこもりがちなので外で遊ばせてやりたい。危険を排除したい。

黒部さん

公民館長として報告する。移動図書がまわってきているので、何人かの子供たちが本を読みに来ている。今後はだんだん多くなると思う。

永山さん

既設の施設を多面的に活用したり一部改修して使うのもいいが、子供にとっては全く魅力のない所だ。子供たちは漁村センターを年寄りの行く所だと思っている。従来型の児童施設ではだめではないか。例えば森の中の丸太小屋のように、建物の中より外でと言う意見には賛成だ。他世代交流がないから進めるしかけとして必要な物は建物だけでなく野外施設を伴った児童館の建設、既設施設の改修に付加をかけていくことを提案する。

特養ホームは、21世紀においても続くのか。老人の町の回りに若者の町を作るとか、グループホーム、ケアハウス、ケア付き老人マンション、特養だけでなく住宅対策と合わせたいろんなものの中から選べるようにしてはどうか。海岸を利用した児童館、キャンプができるか、つりができるか子供にとって魅力のある社会づくりを。

(2) 幹線道路網の整備

- ・ 地域幹線道路網の整備
- ・ 通学路の確保

黒部区長会長

横山地区の幹線道路は南北に走る道路が５本ほどある。どれもが８号線に通じ、ＪＲを横断している。これらの道路の整備が大切である。通学路については問題が多くあるのでＰＴＡが交通整理に苦労している。

亀田さん（横山）

桃李小学校からＪＲ、県道への道は工事が終わり整備された。地下歩道も小杉の方へ行く道もよくなった。しかし、桃李小から横山への道はまだＪＲと県道の問題があるが、子どもの安全、生命を守ることが一番大事だと思うので今後の整備計画があれば聞かせてほしい。

松島課長

櫛山新の交差点から上は県道、下は町道である。町道については物件移転が多すぎるので拡幅は困難である。消雪工事で話がついているが地元負担が大きいのので承認が得られない。ＪＲ側についてはお金がかかるので、県の計画がない。県が交差点の工事をするのであれば町も行っていく。

浜木さん（八幡）

横山の子供達が安全で歩きやすい道にしてほしい。

米澤町長

総合計画の中で、将来的にはＪＲを横断する道路を東、中央、西の３本は必要と思っているので、ＪＲと交渉したい。今の道を広げるのはむずかしいので、アンダーかオーバーの道を考えていきたい。

浜木さん

子どもたちは危険な車道を歩いているので、通学路に歩道をつくってほしい。

松島課長

歩道をつくるには拡幅を伴い物件移転が多いので、地元の皆さんの協力を得られれば総合計画にも入れたい。用地交渉に行ったらはんこを押していただきたい。

（３）防火用水の確保

- ・水不足問題
- ・冬期間の流水

黒部区長会長

横山地区には狭くて水の少ない川が多い。田んぼにも困るが、特に冬期間に住宅密集地から火事がでたら心配なので常に水が流れるようにしてほしい。

松島課長

防火用水の確保、水不足は深刻な問題である。黒東合口用水の取水量が決まっており、ここから入ってくる入川、櫛山用水、青島用水への水の配分は、管理を任されている土地改良区が水門の開閉によって調整をしていただければある程度解決できるのでは。

町民

入川は必ずしも水が少ないわけではなく、冬は川が曲がったところでザイがつくので被害に遭う家の人水が水を止めてしまう。もっと川幅を広くしてほしい。曲がったところを改修してほしい。

松島課長

用水は常に水かさが増減しているので、冬水が少ないときに吹雪いたりすると雪が入ってザイがつき床下浸水などの問題が発生する恐れもあるため、せき止められる経緯がある。水路の断面については土地改良区が管理しているので常時水が流れるように伝えておく。

町民

横山の東（米田武雄さんの下）の用水が曲がっている部分でいつもザイがつくので、町道の下を通すなどして真っ直ぐにしてもらえないか。

松島課長

水路は土地改良区でやっていただき、町がお金を出すという形で対応していきたい。現場を見て改良区と話をする。

上野消防署長

用水は農業用水、生活用水、そして防火用水として大事なので常に水があるか気を付けてほしい。

座長

消防署で管理してもらえないか。

上野署長

河川の管理は権限のないものがすることはできない。ただし火災や水害が発生した時は、緊急事態と言うことで改良区と連絡を取り合って対応していきたい。

林財政課長

防火用水については、八幡も横山も密集地なので、古黒部、春日地区で掘っている打ち込み式の井戸んの方式を取り入れてはどうか。地元の区長さんと相談して初期消火に対応できるように考えていきたい。

町民

出前講座の話はありがたい。町議会の傍聴は、年金生活者か自営業者、変則勤務の人しかできない。出費がかさむかもしれないが、サラリーマンのために年に一度でも土日に議会が開けないか。

鬼原総務課長

最近、他市町村で日曜議会が開催される傾向にある。議会の開催の権限は、議会側にあるのでここで返事ができない。横山地区から要望があったことを議会に申し入れておく。

荒木さん（横山）

横山１区消防署前から長島線の幹線道路西側で排水溝ができていないところがいくつもある。水のはけ場がなく、雨水や消雪水が道路や民家に流れ込む。７、８年前から町に陳情してあるが、全然見にもきていないのではないかな。いつやってくれるのか。

松島課長

側溝を作るには、民地に入り込むとむずかしいが、現場を見てすぐやれるようなら来年度やる。

佐藤学英さん

５年前と比べて人口が６００人減ったそうだが、横山と櫛山は増えていると思う。横山は分譲宅地、櫛山は雇用促進住宅ができたからだ。人口増対策として町で宅地分譲、公営住宅建設をする気はないか。総合計画に宅地分譲と幹線道路の整備を入れてほしい。通学路整備は学校統合の条件だった。

松島課長

これまで新上野、青島、東寺田、横山に町営で分譲宅地をつくったが、今は民間の活力を活用して開発を進めている。業者には500万円、入居者にはそれぞれ20万円の宅地開発補助金を出している。今町でやるとなると、用地を出してもいいという人がいるか、売れるか売れないか、道路等の付属した問題が多いので、今後検討したい。

木本助役

小杉～櫛山新線の県道でJR付近の拡幅は統合以前からやっている。なぜ今日までできないかという、問題はJRがあるために遅れているが、JRに申し入れをしているので理解してほしい。道路整備については長期構想として入っている。

5．地元議員（松田議員）・助役あいさつ

6．閉会 21：50

舟見地区まちづくり懇談会

平成12年11月8日（水）

19：30分～舟見コミュニティ公民館

出席者 地区住民68名 町当局18名

- 1．あいさつ（野島政博区長会長）
- 2．町政についての現況説明（米澤町長）
- 3．新総合計画についての現況説明（大木企画広報課長）
- 4．座談会（座長・三賀博久氏）

第1部（まちづくり）

（1）新総合計画について

金山さん

新総合計画について、少子・高齢者対策 山手地区の過疎化対策 観光資源の利用と開発について、総合計画上の位置付けはどうなっているのか。舟見地区の活性化についてどのように考えているのか。

大木企画広報課長

国の人口は平成17年をピークに減少傾向に転じ、4人に1人が高齢者になると予想されている。入善町においても10年後には25,000人台に減少すると予測されており、次の時代を担う若者の減少、年金などの社会保障の負担増などから社会の活力の低下を危惧している。

少子化については、新総合計画上、子育て支援と位置付けている。町のエンゼルプランの見直しや保護者のニーズの把握を行い、保育環境の整備、保育内容の多様化・充実を図るとともに、保育所・健康交流プラザ・児童センターなどの連携による子育て支援センターとして「子育て道場」を設置し、積極的に取り組んでいく。また、高齢者対策として知識や技術をいかした特産品などの加工施設としてJ I - B A（地場）館の設置などを通して生きがい対策の充実を図る。

山手地区の過疎対策については、町全体でのバランスある発展が大切と考えており、町全体からすれば山手というように区別する考えはない。舟見地区の人口は、10年前は1,804人だったものが、10月1日現在1,680人で、124人の減少、うち65歳以上の人口は586人で、10年前に比べると173人増加している。

一方、0～14歳までの人口は、平成2年で309人、現在202人で10

7人が減少しているが。ところが、20～30歳の方は10年前は357人だったものが、現在は300人で57人の減少にすぎず、舟見地区は、20歳代30歳代の減少率がたいへん少ない地区であり、他の地区にない特徴を示している。

今後の地域活性化のポイントとしては、この20～30歳の年齢層の方々をいかに生かしていくのがキーポイントとなる。七夕まつりなど舟見地区の若者層の活躍が目立っている。この若い人達に主体性を持たせるやり方も活性化の起爆剤になると思うし、町も支援していきたい。

観光資源の利用と開発については、舟見地区は歴史のあるまちであり、豊かな自然にも恵まれている。総合計画では、「後世に残したい36景づくり」事業に取り組むが、その中で、舟見地区の歴史、文化、自然を強力にアピールしていきたい。

個別的には、それぞれの担当課長から説明する。

寺西健康福祉課長

少子化対策として、子供を生み育てやすい環境づくりを進めるため保育所の体制充実を図る。具体的には、土曜日は12時30分で帰宅することになっていたが、来年度から2か所の保育所（東部・西部）で午後7時まで預かることになった。また、平日保育の場合も、午後5時10分や30分までの保育時間を6時まで延長し、7時までは4か所、6時までは10か所の保育所で実施する。これにより、町内全ての保育所で延長保育が可能になる。また、冠婚葬祭などで一時的に保育が必要な場合（一時保育）についても、若いお母さん方が利用しやすいよう体制を整えており、子育て支援を積極的に展開したい。

また、65歳以上の人口は、現在23.1%となっており、もうすぐ4人に1人が高齢者となる。4月から介護保険がスタートしたが、要介護認定を受けたのは約1割となっており、9割が元気な高齢者である。高齢者対策としては、介護予防や生きがいづくりの推進が大切である。そのため、スポーツ、レクリエーション、趣味や特技を生かした活動、教室などの利用を推進し、老人クラブやシルバー人材センターで活躍していただくなど閉じこもり対策を積極的に推進する。

飛田商工観光課長

観光資源の保全と活用についてであるが、まず10月27日に舟見城址館の10周年記念への協力に感謝したい。町には、観光課があるとあまり知られていない。全体的に宣伝が下手である。今回、水のPRのため、ペットボトルの水「O A S I S ^{おあしす} in入善」とパンフレットを作成した。今後これらを活用し、

積極的に町のPRを行っていく。

舟見地区には、負釣山、舟見山、山の本陣など素晴らしい観光資源がたくさんある。まちづくりを地域の皆さんが主体となって取り組んでいる他の市町村を見習い、出前講座などで膝を交えながら、いろんな提案を受け地域づくりを考えていきたい。

(2) 介護保険制度について

樽井さん

介護保険制度では、600人程の要介護認定者がいるときいた。実態や問題点などの把握はどのようになっているのか。認定からはずれた人や低所得者の保護策はあるのか。

寺西健康福祉課長

実施後の問題点として特に大きなものはない。認定の際に、痴呆性のある場合は介護度がやや低くでるようである。これについては厚生省も認識しており、見直しを検討したいということである。短期入所の限度が厳しく制限されていたが、制限枠の拡大が実施された。また、ケアプランを作る介護専門員との連絡調整がうまく行かないケースがある。

非該当者の対策は、必要に応じてホームヘルパーの週1～2回の派遣や週1～2回の日帰り通所、1週間程度の短期入所などを行っている。利用料として、介護保険と同じ1割負担をお願いしている。

低所得者救済としては、実施前からホームヘルプサービスを受けている場合は、通常10%の本人負担を軽減し、3%の本人負担で行っている。通常37,200円となっている利用料の上限額についても、老齢福祉年金受給者、生活保護世帯などは月額15,000円まで、住民税非課税世帯は24,600円までと負担の軽減を行っている。

(3) 青少年の非行化防止

辰尻さん

現代は、テレビゲーム世代が親となりテレビゲームに熱中する背中をみて子どもが育っている。町では154件の犯罪が発生しており、県内でも悪い。家庭、地域、町としてどのようなことをしていくべきなのか。町全体を明るくするため、街灯の設置などを積極的に行うべきではないか。また、防犯協会などとの連携をどのように図るのか。

野島さん

中学校では卒業生によって後輩が暴力団へ誘いこまれるといったことが起き

ている。各組織の活動がばらばらではだめ。警察、防犯組合、社会を明るくする運動、PTA 等のネットワーク化を図ってほしい。青少年が暴力団に入るのを阻止してほしい。

鬼原総務課長

青少年の犯罪防止のための地域社会組織のネットワーク化の問題については、警察署と相談している。育成会議、防犯組合などよく似た組織ではあるが、目的や活動の中身は必ずしも一致していない。関係団体の間での情報交換の必要性は感じている。しかし、既存の組織の他に別のネットワーク組織をつくるのは効果的でない。組織の上に組織を作っても有名無実になる可能性があるため、現状の組織の活性化がまず必要と考えている。その上で警察署との連携協力や各種団体への情報提供、青少年育成会議の活動などを強化していきたい。

野島さん

防犯組合は防犯灯の交換だけを行っているのが現状。犯罪（暴力団）予備軍をとめるのはだれか。各種団体がお互いに話し合う場が必要。

鬼原総務課長

各組織で具体的な事例への対処や社会的な意識付けが必要。これまで防犯は警察という認識があった。しかし、全国各地で凶悪な犯罪が発生しており、青少年非行は身近な問題になりつつある。警察との連携強化など各種団体と相談して進めていきたい。

福沢学校教育課長

2002年には週5日制になる。「子どもたちの生きる力を育むため何をすればよいか」「平日、休みに何をしたいか、また家族が家にいるのか」などを把握するため、アンケート調査をしている。このような実態調査等を通じて対策を検討し、ゆとりあるところを育てていきたいと考えている。非行の芽がないうちに土に埋めることも大切。

上原生涯学習・スポーツ課長

民間の青少年健全育成会議などがあり、健全育成強化月間、声かけ運動などを行っている。犯罪からの復帰や対処は非常に難しい問題である。どのように考えるか、一つ一つの事例にしっかり対処しなければならないのではないかと。地域の方々みんなで指導する、みんなで子供を守ることが必要。

鬼原総務課長

防犯灯の設置については年間一定数の数を各地区へ配分している。もし実態とあわないようであれば、予算を組んで対応する。地域の実情がよく分かるのは地域の皆さんなので、区長会を通じて要望をあげてほしい。

野島さん

結婚、仲人事業などはいかがか。

鬼原総務課長

結婚相談所のことであると思うが、今まで農協で中核農家のお嫁さんさがしのため各地区に仲人推進員がいた。朝日町でも行っている。しかし、運営が難しいので、実際に行政で担当する事は難しい。情報交換が一つの決め手になるのではないか。

山本建夫さん

本日は、結論のでない会合だそうなので、日ごろ考えていることを述べさせてもらいたい。どの地域でも共通の課題である高齢化、若者定住についてであるが、舟見3区の2班では15軒ほどある地域だが、高齢化が進み親睦の機会がない。長男夫婦と同居しているのも2、3軒しかない。山手であることがハンデになっているのではないかと思う。若者が地元で定住するような施策をお願いしたい。

第2部 地域課題

(1) 旧舟見小学校跡地の具体的な計画を示して欲しい

山本外喜雄さん

郵便局ができ、19日に落成式があった。来年は3区の公民館ができる。旧舟見小学校の跡地については、公共施設、民間の施設、企業誘致など利用の方策はいろいろ考えられるが、なかなか困難なようである。分譲住宅地を10区画ほど整備できるので、魅力的なインフラ整備をしたうえで考えてほしい。具体的な考え方を示してほしい。

林財政課長

昨年も同じ提案をいただいた。旧舟見小学校の跡地は来年度に造成、14年度には分譲したい。今年度は用地買収に入り、来年度工事に入りたい。町営住宅については、公共賃貸住宅再生マスタープランにより整備したいので、舟見住宅については上原住宅の次になるので、しばらく先と考えていただきたい。

(2) 舟見簡易上水道の大改修計画の早期着工

野村さん

舟見簡易水道の大改修について 9 月議会で採択され、嬉しく思っている。少しでも安く、早く実施してほしい。また、工事の概況を教えてください。

本多下水道課長

現在、舟見簡水についての改修計画を進めている。13 年度着工を目指し、県ともヒアリングを重ねている。全体の工事になると 6 億はかかると考えられ、受益者にも相応の負担が必要である。事業費の削減が受益者負担の削減につながるため事業の効率性を高め、少ない経費で済むよう検討している。井戸の増設はしなくてもいいのではと思っているので、詳しい試算はしていないが説明会を実施した当時より 5 ～ 6 千万円ほど違うと考えられる。県水道協会の理事になったこともあり、この機会に働きかけを積極的に行いたい。県からの正式な採択はまだないが、前倒しで測量調査をやってみたらどうかという話が県からあった。12 月補正も含め、ぜひ進めたい。少ない経費で安心して飲める水の供給を行うため、受益者負担など協議を進めていきたい。

野島さん

新しく工事するとあまりに大きな負担増になる。自分で試算したところ、新しくすると基本料金が 1,000 円、30 t で 1,900 円になり、基本料金で 475 円だったものが 1,000 円と倍以上になる試算。効率性を考え、負担の軽減を図ってほしい。分譲宅地の提案は、地元と話し合いを進めてほしい。

本多下水道課長

受益者負担の問題については、今後も討議をしていきたい。

林財政課長

分譲宅地化については 13 年度に造成、14 年度には分譲したいと考えている。

樽井さん

忠魂碑の前にお参りできるだけの土地を確保してほしいとこれまでも要望してきたが、どうなるのか。

林財政課長

地元と協議を十分にしたい。

(3) 下水道 (農業集落排水) 計画の概要を示してほしい

金山さん

下水道事業は、町の一大プロジェクトである。舟見はいつか、どれくらいの負担か、浄化センターの場所、処理場はどのあたりにできるのか、その付近の住民の賛同が得られるのかなど心配なことがたくさんある。宇奈月町は下水道を完備しているが、川の汚れは年々ひどくなっているように感じる。生活様式の変化が原因かと思う。洗濯の回数の増加、洗濯機的大型化、合成洗剤など生活雑排水の汚れを感じる。一日も早い着工をお願いしたい。

本多下水道課長

13～16年にかけて新屋地区を整備している。舟見、野中の両地区を1地区として16年度採択の予定であるが、採択のためには地元の協力が必要。具体的には推進委員会の設置、90%以上の同意書が必要である。小摺戸、新屋の場合は99%の同意があった。うまくいけば13年後半に地元説明に入りたいと考えている。1地区1浄化センターというのが基本だが、公共事業の見直しということもあり、浄化センターについて農水省、建設省の歩み寄りが見られる。半年後くらいには見通しがつくのではないかと。情勢を見極めたうえで検討し、地元と協議したい。

受益者負担については、一般の家庭で25万の負担になる。使用料は、条例で定めており、現在のところ基本料金1,900円に世帯人員1人につき500円を加算した額に消費税を加えた額となっている。例えば4人家族なら1,900円+500円×4人+消費税となり、約4,000円の負担ということになる。個人で設置する浄化槽の維持管理費用より安いのではと思っている。受益者負担は10年も20年もこのままというわけではなく物価の変動等により、見直しする可能性はある。今後、地元からの要請に基づき、国の動向も含め説明会を行い、同意書、公共マスなどの協議に入りたい。事業については平成16年度に採択、スタートということになると考えている。

(4) 舟見保育所の改築計画について

小林さん

先ほど、総合計画の概要説明を受けたが、舟見保育所の改築は検討されているのか。現在、建築から29年たっており、町でも一番古い保育所ではないかと思う。老朽化が進んでおり、将来をたくす子供たちの明るい未来のためにも改築を行ってほしい。

野島さん

舟見保育所は、かなり古い建物で改善すべき点がいくつもある。トイレに換

気扇がなく、窓が開いている。手洗い場は水滴で浸食がひどく不衛生。遊戯室の天井板が垂れ下がってきている。桃組のトイレは小さい子に届かない高さであるし、はまったりするようだ。その他、カーテンの不足や、雨漏りなど実態を見て、早急に改善してほしい。

寺西健康福祉課長

舟見保育所の老朽化に伴う建替えについてであるが、町には舟見保育所と前後して建築された保育所が3か所ある。そのうち櫛山地区については、人口増加地区であり入所児童数が多く手狭なため、13年度での改築を計画している。雨漏りについても補修していきたいが、原因不明の箇所があり改修に苦労している。舟見保育所についても総合計画での位置付けを検討したい。

野島さん

桃組のトイレの便器の交換など今年度中にでもやって欲しい。舟見保育所の実態をつかんでいないのではないのか。

林財政課長

現場を確認し、できるだけ早く改善していきたい。

野島さん

下水道の受益者負担の25万円、工事費の10%というのはかわらないのか。

本多下水道課長

5%である。条例で決まっており簡単には変えられない。

樽井さん

保育所の件であるが、雨水の排水も良くないので、併せて現場を見て改善してほしい。

5．地元議員（大林議長）・助役あいさつ

6．閉会 21：35

野中地区まちづくり懇談会

平成12年11月10日（金）

19：32～農村婦人の家

出席者 地区住民35名、 町当局17名

- 1．あいさつ（大割恒男区長会長）
- 2．町政について現況説明（米澤町長）
- 3．総合計画について現況説明（大木企画広報課長）
- 4．座談会（座長・坂東久男氏）

第1部（まちづくり）

（1）介護保険制度について

- ・介護保険を支払っているが、仕組みが分かりにくい。

水野さん

ホームヘルパーの3級受講日を増やして欲しい、土日など。また、介護保険制度の改正点などがあれば教えて欲しい。

寺西健康福祉課長

ヘルパー研修については、3級は50時間の講義と実習を受ける必要がある。実習は各施設へ開催日の依頼の調整を行わなければならない。各施設も土日は休日編成のため職員が少なくなるなど難しい面もある。今年度は難しいが、来年度開催するのであれば、施設等への申し入れをしていきたい。

介護保険制度の改正点については、現在のところ法的なものはない。ただし、運用面における改善点として、施設への短期入所について、利用日数が少なく設定されていたが、利用日数の拡大が図られたところである。また、介護認定の更新は原則6か月ごとに行うことになっているが、特に介護度が変わらない人については手続きが面倒になるので、介護保険組合から県・国へ期間を延ばせないかと要望中である。

そのほか、痴呆症の方は要介護度が低く出る、介護利用計画の作成がスムーズに行かなかったと言うことも聞いている。このようなことも今後の改正点だと思う。

上原生涯学習・スポーツ課長

ヘルパーの講習は労働省の外郭団体から助成金をいただいている。現在は、サンウェルの方で55時間を11日間で実施40人の募集がいっぱいになっている。内、男性は2名である。

第2部 地域課題

(1) あぐり館について

小松さん

あぐり館は、現在まで4万人を超える利用者がいる。もっと若者が集まるよう「まちづくり元気塾」のようなものを設置するなど魅力的な施策にできないか。電源の許容量が足りなくなってきた。冬にストーブを使っているとブレーカーが落ちることもある。もっと活発に使っていけるように施設の充実をお願いしたい。

西島さん

現在、グラウンドには照明が4つついたものが1基あるだけで、夜間のスポーツなどでは危険な状態である。グラウンドの周辺に舗装されている場所があるため、暗がりでは危ない。電源が切っているあぐり館の西と東、プール側とスキー山のほうのものと計4つの照明を使えるようにお願いしたい。

上原生涯学習・スポーツ課長

電源については本日午後に現場を確認した。夏場等の極端に電気を喰うような事態の他に普段でも落ちるようであれば、来年度の予算要求にあげたい。

「元気塾」みたいなものをするということであるが、若い人たちをコミュニティの活動に巻き込むのは大変難しい時代になってきている。若者の生涯学習活動については、若者の自主性を尊重し、若い人たちに公共施設を自由に開放することで、どんどん活動してもらえればと考えている。

グラウンドには、出来る限り利用者の安全の確保を第一に考えて接続していきたいと考えている。学校施設の照明施設の管轄には含まれないと思うが、明るい村づくりのためにも必要なことだと思う。予算に反映したい。

小松さん

A P Gという会が以前はあったが、いまはどこで会合等を開いているのか？

大角農業水産課長

A P Gは朝日町と入善町で会を開いている。決まった館を活動の拠点としていることはない。農業センターに拠点があったが、今は児童館に変わってしまったため今は無い。

今後、加工流通施設や農業公社の設立に併せて検討していく。

(2) 舟見中学校の今後の課題について

座長

今年の 8 月に教育長から今後の舟見中学校についての意見を参考にしたいと聞きに来られた。この問題をこの場でも皆さんと考えたい。

稲村さん

8 月から 3 か月たってどのような話になっているのか、お聞きしたい。町立になった場合の問題点等を町としてどう考えているのか、お聞きしたい。子供が減った場合の問題や対策等もお聞きしたい。

米島教育長

8 月 29 日に説明とご意見を伺ったところである。舟見地区の意見も伺った後、区長会長から町立にすることには理解すると電話をいただいた。当方では町立とする方向ですすめている。手続きとして教育委員会の決定と組合立の議会の議決が両町分必要である。

財産の問題もある。設立は朝日、宇奈月、入善で行われたので、財産については 3 町で話し合う必要がある。その後に財産面で、町長部局において検討していただく。

組合立であっても町立であっても抱える問題は変わらないと認識している。生徒数の減少について、例えば舟見中学校が無くなるといった心配があるようだが、教育委員会では今後も町内 3 校で行っていく考えである。

県は 1 学年 8 人以上であれば、学級とできるとしているため、学級編成等で対応していくことも出来る。地元からの統廃合の意見が出ない限り、継続とする。また、小規模校のメリットとして、例えば心のケアと言う面等では大規模校よりも小規模校の方が、より深く行うことができる。

今後の教育の方向として、知識を教えるだけでなく発見してお互いに解決する方法を見いだすなど、従来の教育の反省点のもとにたった教育が必要である。この点からも小規模校の方がよいと思う。

一方、部活動については入善中学校でも部員数の減少が問題になっている。総合スポーツクラブを育成し、学校を離れたところで子供たちが希望するスポーツ等を行うといったことも考えている。質問にはありませんでしたが、教育環境の整備については、舟見中学校については教科に対する教師の余裕がないため、人事には特別な配慮をしている。

金山さん

町立になった場合、校区割りの見直し等をお考えでしょうか？

米島教育長

生徒の実体は、町立にしても変わりはないので、地域の方の意見がない限り校区についても現状を維持していく考えである。現在の生徒数と教師の関係を考えると小規模校はよいのではないか。舟見中は生徒6.4人に1人の先生であるが、入中は17人に1人、西中でも18人に1人といった状況である。

小松さん

転作状況について、お聞きしたい。地区独自の互助制度を国の制度に併せて行ってきたが、現状は厳しい。このままでは集団転作が壊れるのではないかと言う心配が出てきた。なにかいい意見や例があればお聞かせください。

大角農業水産課長

互助制度は野中地区としてか？

小松さん

上今江だけで行っている。

大角農業水産課長

集団転作は、担い手の育成を図ることも一つの目的であった。しかし、地区の互助制度は国や県の制度に吸収されている現状である。県下でも集団化は避けて通れないと考えている。

30%の転作率は一農家として厳しい。互助制度について県下で良い例は思いつかないが黒部市で法人組織化するという動きもある。

手放したいという方が多く、担い手の育成が出来ない場合は、集落営農と法人化という手がよいのではないか。

住民

老人福祉の補助金が毎年下がっている。これ以上、下げないようにお願いしたい。

林財政課長

人数の関係もあるが、若干下げている。2・3年前の補助金の1割カットがあった時点から下がったのではないか。

住民

これ以上下げないでもらいたい。

寺西健康福祉課長

実績をみながら考慮していきたい。

区長会長

除雪の雪によるザイがつく問題について

松島建設課長

話の場所についてはさっそく見に行ってきた。落雪防止網といった網のようなものを取り付けたい。予算の問題もあるが、考慮したい。

5 . 地元議員（西尾議員）・町あいさつ

6 . 閉会 21 : 03

平成１２年度 まちづくり懇談会 ご意見カード集約表

NO	内 容	関係課	備 考
1	ハード面の行政から、ソフト面への力点を移すことが必要。	企画広報課	
2	人口流出、商店街を今後どうするのか？	企画広報課	
3	入善町に来ると、車から降りて帰りまで、買い物、遊び、教養娯楽等がある施設があれば便利。入善町に来れば何でも物があるというイメージも大切だと思う。	企画広報課	
4	協議議題をもっと広くとって欲しい。市町村合併、JR入善駅の無人化問題、少子高齢化問題等。	企画広報課	
5	役場の答弁が課長によって違う。もっと真剣に協議し答えるべき。	企画広報課	
6	産業展示館の周りに子供と老人が集えるような施設を。	企画広報課	
7	住民が期待した答弁が返ってこなかった。責任逃れの感じがした。もっと「味」のある場を。	企画広報課	
8	インターネットによる企業誘致。ＩＴ関連や海洋深層水関連の企業をホームページを使って募集しては	企画広報課	
9	まちづくりの理念であり、町の維持発展のため、水環境保全条例を作成して欲しい。	企画広報課	
10	出前講座は期待している。	企画広報課	
11	時間が長い工夫を願う。説明はより具体的に。	企画広報課	
12	女性の意見が無い。	企画広報課	
13	地下水を考え、扇状地を生かすまちづくりを提案、立案計画するべき。	企画広報課	
14	自然は自然のままの対策ができないものか。	企画広報課	
15	出前講座は良い取組であるが、担当者は言い放し、聞きっぱなしにならないように。	企画広報課	
16	黒部川の日本第二位の清流を取り戻す努力が必要である。	企画広報課	
17	大きな施設の屋根を利用して子供用のゲレンデを作ってはどうか。	企画広報課	
18	環境の日をもうけて欲しい。	総務課	
19	桜台団地内の道路を通学路に。防犯灯の電気代を無料に。	総務課	

平成１２年度 まちづくり懇談会 ご意見カード集約表

NO	内 容	関係課	備 考
20	防災無線受信機の普及率は何％か	総務課	
21	青少年の非行防止化には、親の甘やかしが一番の原因ではないか。親の教育が必要。	総務課	
22	交差点でも暗いところが多い。交通安全上防犯灯の設置が必要ではないか。	総務課	
23	庭木の剪定後の枝等をチップ等にしてくれる機械設備があればよい	住民環境課	
24	生ゴミ処理機の購入補助金制度を設ければ。	住民環境課	
25	ゴミ袋の地区名を書く欄を上になできないか。	住民環境課	
26	ゴミの分別についてのビデオを作ってマナーを守る。	住民環境課	
27	ゴミ袋の代金の使い道を広報などで説明して欲しい。	住民環境課	
28	各業者の資材置場は放置することなく年２回は整理整頓をすること。	住民環境課	
29	雑草の刈取後の放置や病虫害駆除を行うよう通達による徹底指導を願いたい。	住民環境課	
30	他地区にも再生広場を新設すればどうか。	住民環境課	
31	生ゴミ処理機の助成金を増額して欲しい。	住民環境課	
32	公共用地の除草は、ボランティアに。飲み物代を出せばどうか。	住民環境課	
33	コスモ２１ではパック類やペットボトルをやっているが、アルミ缶やスチール缶もやって欲しい。	住民環境課	
34	燃えないゴミの集める日を週一回～二回にして欲しい。	住民環境課	
35	海岸に公衆トイレを作って欲しい。	住民環境課	
36	ゴミ問題について、特に女性を含めて検討されるよう希望します。	住民環境課	
37	公民館活動の場として福社会館の３階をすすめられたが、３階は照明機器が暗い。取り替えて欲しい。	健康福祉課	
38	海に見える横山地区に第三特養ホームを作ってください。	健康福祉課	
39	特養ホームの計画を早く作って欲しい。	健康福祉課	

平成12年度 まちづくり懇談会 ご意見カード集約表

NO	内 容	関係課	備 考
40	漁業に関することのみがクローズアップされているが、農業問題は？	農業水産課	
41	農業公社等の受託業者増大を早急に考えていかないといけないのでは。	農業水産課	
42	農業問題についてもっと考える必要があるのでは	農業水産課	
43	米価が下がったから小作料も下げて欲しい。	農業水産課	
44	海岸線に潤いをもたせ、何世代の人々が交流できるような場所、環境づくりに力を入れて欲しい。	農業水産課	
45	米の消費拡大及び農家の支援を強く望む。	農業水産課	
46	転作の強化により農業後継者にダメージを与えようとしている現状、町独自の転作対応を検討して欲しい。	農業水産課	
47	減反の確定は遅くとも9月中にして欲しい。	農業水産課	
48	深層水を利用したプールが出来ればよいと思う。	海洋深層水課	
49	海洋深層水に全力揚げて取り組んで欲しい	海洋深層水課	
50	海洋深層水による関連道路と雇用拡大を期待する。	海洋深層水課	
51	のらんマイカーを吉原、浜西商店前で止まって欲しい。	商工観光課	
52	JR入善駅の無人化について反対運動がしているが、JR側は見放していると思う。今後の運動方針は。	商工観光課	
53	西入善駅の防犯の点から、海側に外灯を設置して欲しい。	商工観光課	
54	企業誘致は人口増につながる。一日も早い努力をお願いします。	商工観光課	
55	みったの出店はどうなったのか。	商工観光課	
56	井波の木こりの里のように、産業と観光と一体したものを目指す。	商工観光課	
57	猿を餌付けして高崎山のようにすればどうか。	商工観光課	
58	イベントを各地区で持ち回りで行き、月1回開催。	商工観光課	
59	地場産品のPRと積極的な活用	商工観光課	

平成12年度 まちづくり懇談会 ご意見カード集約表

NO	内 容	関係課	備 考
60	現国道8号の渋滞の解消のため、黒部川の堤防管理道路を進捗禁止にすればどうか。	建設課	
61	「長い道」の拡幅改修を早期に願います。	建設課	
62	都市計画道路「上野吉原」の早期供用開始を。	建設課	
63	墓の木自然公園からスーパー農道までは広い道ができているが、その下の島～岩崎線までが狭くて曲がっている。広い道を造って欲しい。	建設課	
64	道路の工事中があちらこちらにあり、早く舗装して欲しい。	建設課	
65	八幡地区の県道の拡幅が予定されているが、一日も早い完成を望む。	建設課	
66	一番気になっている道路問題が、みんな重いが一緒だと思います。いい結果がでるように。	建設課	
67	春日の川の安全柵を直して欲しい。	建設課	
68	駅南のようなアパートを作って欲しい。	建設課	
69	古黒部の県道が曲がりくねっている。改善して欲しい。	建設課	
70	通学道路の一日も早い解決をして欲しい。	建設課	
71	通学道路などの重要課題に早期着工を望む。	建設課	
72	通学路の危険箇所を、小さな改善でもいいから直して欲しい。	建設課	
73	舟見の町ほど大型トラックが通る町並みはない。県道のバイパスを作るべきである。	建設課	
74	分譲宅地を行う業者に、外灯の設置を行政指導してもらえないか。	建設課	
75	融雪装置の受益者負担の軽減	建設課	
76	新屋地区に下水道整備は必要か？個別対策できないか	下水道課	
77	五十里地区での終末処理施設の建設は、環境に充分注意を払うとともに、周辺住民が望む公共施設を誘致して欲しい。	下水道課	
78	消防団員の後継者不足と補充	消防署	

平成12年度 まちづくり懇談会 ご意見カード集約表

NO	内 容	関係課	備 考
79	打ち込み消火栓を設置してはどうか。	消防署	
80	中高生の自転車のマナーが悪い。	学校教育課	
81	児童に夢と希望を与える、児童行政を施してもらいたい。	学校教育課	
82	将来的には舟見中学校の名称を廃止し、新たな中学校の設立を視野にいれた検討をお願いしたい。	学校教育課	
83	もし入善地区公民館を建てるとしたら、一般の店を入居させれば。使用料、建物の経費など補充でき、利用率も上がるのでは。	生涯学習・スポーツ課	
84	寒い時期でも、雨の日でも安心して歩ける施設やプールがあればよい	生涯学習・スポーツ課	
85	室内プールを作って欲しい。	生涯学習・スポーツ課	
86	栢山交流センターにはステージを、また、いすの出し入れが自動的になるように。	生涯学習・スポーツ課	
87	交流センターの建設時の際、防災センターとしての役割を加味されたい。	生涯学習・スポーツ課	
88	運動公園のトラック内のナイター施設を一基だけでも明るくできないか。	生涯学習・スポーツ課	
89	スポーツ少年団は学校の区域を越えて活動しているが、それらを継続していけるようお願いします。	生涯学習・スポーツ課	
90	学校を離れてのスポーツクラブ方式については、今後より具体的な方策を検討していただきたい。	生涯学習・スポーツ課	
91	栢山交流センターにお茶室を計画に組み入れて欲しい。	生涯学習・スポーツ課	

受付日

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.26

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

受付日

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.28

H12.10.29

H12.10.29

H12.10.29

H12.10.29

H12.10.29

H12.11.7

H12.11.7

H12.11.7

H12.11.7

受付日

H12.11.7

H12.11.7

H12.11.7

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.8

H12.11.10

H12.11.10

H12.11.10

H12.11.17

H12.11.17

H12.11.17

H12.11.16

H12.11.16

受付日

H12.11.16

H12.11.16

H12.11.16

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

受付日

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.13

H12.11.18

H12.11.18

H12.11.18

H12.11.18

H12.11.18

H12.11.18